

2023年度堺第1高齢者支援センター重点事業計画書兼報告書

以下の項目について、町田市地域包括支援センター運営方針を踏まえて記載してください。

1 担当する地域の現状と課題

担当する地域の現状と課題の中から、特に重要であるものを3点記載してください。

【現状と課題①】

相原町はKDB データより健診受診率が町田市全体の46.2%に対して33.3%と低く、受診推奨者のうち医療機関未受診者・未治療者の割合も町田市全体に比べやや高く、微増傾向にある。要因として近隣の医療機関の少なさや急坂の地形と交通空白地区など移動手段が確保できず、受診につながらない可能性がある。高齢化に伴う運転免許の返納により外出を控え、閉じこもりになるリスクもある。未受診の戸別訪問調査をすることで状況把握とともに介護予防普及啓発を働きかけていく必要がある。

【現状と課題②】

武蔵岡アパート(武蔵岡団地)は全戸数787戸のうち518戸に高齢者が住み、このうち262戸が独居高齢者となっている。近隣には店舗が少なく、歩行に支障をきたしている高齢者は生鮮食品等があるスーパーへバスやタクシーなどで移動しなければならない現状がある。高齢者支援センターと地域住民とのつながりを構築し、継続的に支えられる仕組み作りを検討するため、自治会・民生委員・老人会・住民に向け、移動支援プロジェクトを立ち上げ、福祉事業所協力のもと車両提供いただき移動支援を実施してきたが、担い手の発掘や仕組みづくりなどの課題があり、住民主体の本格実施に至っていない。課題解決に向けた取り組みが引き続き必要になる。

また、武蔵岡アパートの相談件数割合は相原町の約40%であり、精神疾患、老々介護、8050問題、認知症、権利擁護、生活支援、孤独死への不安と複合的である。独居高齢者も半数以上であることから、見守り体制の整備や高齢者支援センターとの顔が見える関係づくりに努め包括的に支えられるセーフティネット的な仕組み作りを長期的に行う必要がある。

【現状と課題③】

総合相談では、近隣に専門の医療機関がない中、地域の住民から「認知症になったらどのように対応したらよいのか?」「認知症の予防について教えてほしい。」という相談や、精神疾患や障がい、経済困窮などの複合的な相談が増加しており、高齢者支援センターだけではなく、多様な機関との連携を強化していく必要がある。関連機関や地域の見守りネットワーク等と情報共有等や顔が見える関係づくりを継続して構築し、包括的支援強化をしていく必要がある。

2 課題解決に向けた重点的な取組

「1」の課題を解決するため、重点的に取り組む内容について記載してください。

取組名①	自身の健康に関心を持てるきっかけづくり	
計 画	目標	
	自身の健康に関心を持つ高齢者が増え、自ら介護予防活動を行う住民が増える。	
	2023年度の取組	
	① 未受診者(70件)への戸別訪問調査の実施 ② 介護予防月間で相原全域の地域住民向けに介護予防地域イベントの開催 ③ 坂下町会の自治会館活用について住民から相談があったことから、会館活用として町トレ立ち上げについて働きかけてく。 中相原町会は町トレ自主グループがないため、立ち上げをめざす。	
	活動指標	
	① 訪問調査の訪問戸数 ② 介護予防地域イベントの開催数 ③ 町トレ自主グループの立ち上げ数	
	目標値	① 50件②1回③2か所
	実績値	① 50件②1回③2か所
実 績	2023年度の成果	
	① 健診、医療機関、未受診者、介護保険未認定者を対象としたアンケートを5月～7月にかけて実施。相原全域46件に郵送調査。武蔵岡団地28件は訪問調査を実施。2023年度未受診者であった、51件についても調査対象とし、総数125件の調査を実施。回答数66件。郵送による返信が71件あったものの、無回答が5件。回答率は52.8%であった。郵送での回答がなかった住民18名について訪問調査を行った。調査結果でハイリスク(認知症・鬱・低栄養・孤独)を把握し、12月よりハイリスクと思われる住民について訪問調査を4件実施した。12月以降も順次訪問調査していく。 回答結果の中には「他市の医療機関を定期的に受診している。」という方もおり、相原町が近隣に医療機関が少なく、交通手段もないため、友人に運転してもらうなど、高齢者の移動に関する課題の把握にもなった。 郵送調査では、調査後「高齢者支援センターが相談のできる機関であることが分かった。」と支援センターに電話連絡が入り、支援につながった。また、戸別訪問も行ったことにより、介護保険の申請をはじめ、相原地区社協で実施している移動支援の利用につながった。 ② 10月に介護予防月間地域型イベントを開催。鶴川サナトリウム病院に協力の下、	

	<p>MCI 講座を開催。参加者46名。町田市歯科医師会協力の下オーラルフレイルについての講座を開催。参加者16名。</p> <p>③ 7月に丸山団地で「町トレみどり」が立ち上がった。坂下町会で開催を試みたが、会場や代表者などが決まらず、立ち上げ見送りとなった。ウエルシアのフリースペースでの町トレ立ち上げについて大戸町会の元自治会長へ相談し、ウエルシア薬局とも相談。3月に立ち上げていく見通しとなった。</p>
	2024年度に向けた課題
	<p>① 「自分は健康だと思う。」という意識の方に対して、自身の健康に関心を持ってもらうために、健康に関する情報発信を行っていく必要がある。</p> <p>③ 坂下町会での町トレ立ち上げには開催場所の課題(会場費用や設備)があるため、坂下町会の自治会との協議を含め開催場所の再検討を図っていく必要がある。</p>

取組名②		武蔵岡アパートの高齢者が安心して生活するための仕組み作り	
計 画	目標	買い物移動支援の立ち上げと見守りの仕組みづくり	
	2023年度の取組	移動支援の担い手の確保や仕組みづくりなどの課題解決に向けてささえあい連絡会を開催し、移動支援を本格実施させる。	
		① 支援センターと武蔵岡アパートの住民が顔の見える関係づくり・相談できる環境づくりを継続して行う。武蔵岡住民を対象に「終活ノート武蔵岡バージョン」普及についてのささえあい連絡会開催する。ささえあい連絡会では、あんしん連絡員への登録呼びかけも行っていき、見守りへの意識を高めていく。	
	活動指標		
		① 買い物支援に関するささえあい連絡会の開催回数。 ② 終活ノートに関するささえあい連絡会の開催回数。	
		目標値	① 1回 ②1回
実 績		実績値	① 2回(6月、10月) ②0回
		2023年度の成果	
		① 4月から6月の期間、支援センターが窓口となり、移動支援を実施。交通事業補助金について概要説明や今後について協議。7月より新体制として10号棟の元自治会長が中心となり、本格的に住民主体として移動支援が再開された。新たな担い手として10号棟の自治会長や大戸町会の住民が手上げされ、移動支援の協力者が徐々に増えつつある。10月には支え合い連絡会を開催し、新たな担い手の方が移動支援を円滑に行えるよう話し合いの場を設けた。	

	<p>② 終活ノート配布に向け、武蔵岡団地の自治会長へ40周年祭、記念品としての配付を検討するも「祝いの式典で終活ノート配布はどうか。」との意見により保留。3月に見守りネットワーク交流会を開催予定。見守り活動についての周知を図っていく。</p>
	<p>2024年度に向けた課題</p>
	<p>① 住民主体の移動支援継続のため、必要に応じて支え合い連絡会の開催をし、バックアップを行っていく。</p> <p>② 武蔵岡団地オリジナル終活ノート作成の取り組みに関するチラシを作成し、武蔵岡団地自治会長に働きかけ、支え合い連絡会の開催を目指す。</p>

	<p>取組名③</p>	<p>認知症や精神疾患などの複合的な問題に対する支援体制を強化する。</p>
	<p>目標</p>	
	<p>認知症予防についての知識を持ち、予防活動を行う住民が増える。 支援者の認知症や複合的な問題に対する支援能力が向上する。</p>	
	<p>2023年度の取組</p>	
<p>計 画</p>	<p>① 「認知症予防カフェ」の名称で認知症当事者をはじめ、地域住民向けにカフェを開催。カフェの中では社会交流のほか、ちよい足し講座を参考に認知症予防に関する内容を取り入れて開催していく。</p> <p>② 地域ケア個別会議で出た課題をもとに、ケアマネジャーや民生委員などの支援者に向けて、認知症の方の運転についての地域ケア推進会議の開催。</p> <p>③ 鶴川サナトリウム病院に講座を依頼し、認知症の方のアセスメントに関するケアマネジャー向けの勉強会の開催</p> <p>④ 複合的ケースについて障がい者支援センターや保健所、まちだ福祉〇ごとサポートセンター堺等の各専門機関と関係構築を図れるよう連携会議の場を設け、情報共有や事例検討を行う。</p>	
	<p>活動指標</p>	
	<p>① 認知症予防カフェの開催数</p> <p>② 地域ケア会議の開催数</p> <p>③ 勉強会の開催数</p> <p>④ 関係機関との連携会議の開催数</p>	

	目標値	① 1回 ②1回 ③3回 ④1回
	実績値	① 1回 ②1回 ③2回 ④1回
実績	2023年度の成果	
	<p>① 12月より毎月第1日曜日、午前10時から12時までふるさと朝市の開催が始まった。ふるさと朝市で「認知症予防カフェ」として「相原あんしんカフェ」の常設開催を始めた。初回来場者は16名。参加者へ認知症ケアパスの配布のほか認知症に関する資料提供を行った。参加者から「こういったところで介護や認知症、健康に気を付けた方がいいことなどの情報が聞けて良かった。また立ち寄りしたい。」との声があがった。ふるさと朝市には多世代の方が立ち寄ることから高齢者支援センターの周知を行う等、相原町の認知症サポーターに協力していただきながら相原あんしんカフェを運営していく。</p>	
	<p>② 9月19日に地域ケア推進会議を開催。「高齢者の運転について」ケアマネジャーをはじめ民生委員、見守りネットワーク代表者、警察、多摩若年性認知症総合センターの方などが参加し、多様な関係者の顔の見える関係作りと連携強化がなされた。会議では高齢者の認知機能低下に伴う問題のある運転への対応について共有を行い、免許返納による困りごとや支援できることについて協議した。高齢者の運転理由には、通院の他に買い物としても運転を行っているという意見があり、11月に相原駅前のスーパーが閉店したことに伴い、買い物への不安の声が多数上がった。このことから地域住民(よりみち広場)、まちだ福祉〇ごとサポートセンター堺と買い物支援に関する支え合い連絡会を10月に立ち上げ「相原お買い物サービスマップ」を作成。回覧にて周知を行った。</p>	
	<p>③ 堺地域での圏域ケアマネジャー研修会にて疾患別(認知症・脳血管障害・心疾患・大腿骨骨折)事例検討会や勉強会を定期的に実施。参加したケアマネジャーからは「ケアに対しての再確認や理解を深めることが出来た。」との声があった。10月に月間介護予防イベントにて鶴川サナトリウム病院の協力の下、MCIに関する講座を開催。11月に斉藤歯科医院の協力のもと「歯の健康と認知症」の講座を開催。介護予防の視点で MCI や認知症予防に関心を持ってもらうことを目的に地域住民を参加対象者とし、ケアマネジャー、高齢者支援センターの職員も一緒に参加できる形式で開催。認知症に関する情報提供の場を複数設けることが出来た。</p>	
<p>④ 11月28日に重層的支援体制の構築における会議を開催。8050問題、ひきこもり、孤独死に関して、高齢者支援課・福祉総務課・保健所・堺地域障がい者支援センター・まちだ福祉〇ごとサポートセンター堺とともに連携強化について話し合いを行った。</p>		

2024年度に向けた課題
<p>① 開催場所について、相原の東側である相原駅前での開催だけではなく、西側の地域のウエルシアなどでの開催を検討する必要がある。店舗で開催することで、季節の状況(暑さ・寒さ)に関わらず開催することも可能であることから交流の場としての活用を目指す。</p> <p>② 認知症高齢者が運転せざるを得ない状況を軽減していけるように、移動支援の利用促進や「お買い物サービスマップ」の情報更新を定期的に行い、支援体制を構築していく必要がある。</p> <p>③ ④複合的な問題に対し、重層的支援体制の構築は必要であるため、支援者をはじめ住民に対し、各機関の機能を周知する機会をどのように設けていくか協議をしていく必要がある。</p>

3 市のコメント

<p>(良い取り組みだと感じた点)</p> <p>○相原のスーパー閉店について、関係機関と協力してマップを作成・配布する等、地域の課題に対して、タイムリーに対応できたこと。</p> <p>○郵送や訪問によるアンケート調査を実施したこと、またそれにより、個別支援を行うだけでなく、地域の課題を把握することもできたこと。</p> <p>(次年度以降力を入れてほしい点)</p> <p>○複合的な課題を持つ高齢者の支援について、○ごとサポートセンターとの協働を引き続きすすめていくこと。</p> <p>○移動支援について、継続できるよう、福祉関係以外の事業所やアクティブシニア等の協力も得ながらすすめていくこと。</p>

2023年度堺第2高齢者支援センター重点事業計画書兼報告書

以下の項目について、町田市地域包括支援センター運営方針を踏まえて記載してください。

1 担当する地域の現状と課題

担当する地域の現状と課題の中から、特に重要であるものを3点記載してください。

【現状と課題①】

2020年以降、新型コロナ感染拡大予防のため、高齢者同士が集まる機会の自粛が続いたことにより、地域活動の一部が停滞したままとなっている。田端地区、第三町内会の老人会は活動が先細りしている傾向がある。参加者が減少し、解散に至った活動も出てきている。上馬場・下馬場・沼団地・アパガーデンパレス多摩境の見守りネットワークは、この3年定例会の開催ができておらず、活動存続が危ぶまれている。上小山田の支え合い連絡会は、2022年度の春に1回会議を開催したのみである。

活動団体の中には、コアメンバーの高齢化が進行しているところも多く、現状の把握と、再開に向けての後方支援が必要な状態となっている。

【現状と課題②】

小山地区は2000年以降、大型マンションや新興住宅地の開発が進んでいる地区である。10年前と比較すると、新規の相談が増えてきており、地方で暮らしていた親を心配し、呼び寄せたことに伴う相談も増えた。呼び寄せ相談率は、2010年度7.8%、2021年度12.3%となっており、親を介護する世代が増えてきていることに加え、「コロナ禍」が拍車をかけたような状況になっている。

同居をスタート後に介護の大変さに気づき、切迫してから相談されることも多々あるのが現状となっている。若い世代へ向けて、支援センターが高齢者相談の窓口であることの周知や、認知症や介護に関する関心を持っていただけるような工夫が必要となってきている。

【現状と課題③】

エリア全体の特徴として、「高齢化率の低さ」に加え、「年少人口割合の高さ」がある。町田市全体での年少人口割合が11.7%であるところ、堺2ではどの町でも15～17%である。子どもに関わるボランティア(まちとも、登下校見守り等)のニーズはかなり高いが、担い手が不足している状態であり、地域全体の大きな課題となっている。これまでも元気な高齢者には、まちともや登下校見守り、読み聞かせなどの活動を紹介させていただいており、それらは高齢者自身の生きがいにもなっていた。多世代での交流が高齢者にもたらす「介護予防の効果」があった。

「コロナ禍」以降、感染拡大予防のため、高齢者と子どもの接点が少なくなっており、自然なかたちで交流する機会が減ってきている。

2 課題解決に向けた重点的な取組

「1」の課題を解決するため、重点的に取り組む内容について記載してください。

取組名①		停滞した地域活動への後方支援	
計 画	目標	活動停滞している老人会・見守りネットワーク・支え合い連絡会の現況を把握し、後方支援を行うことで、活動の再スタートを切ることができる。	
	2023年度の取組	<p>田端地区・第三町内会の老人会については、会長に挨拶に伺い、現況を確認する。講師不足やメンバー減少等での困りごとがあれば、解決に向けて助言していく。</p> <p>上馬場・下馬場・沼団地・アパガーデンパレス多摩境の見守りネットワークについては、会長に挨拶に伺い、今後の展開について確認する。5～6月に開催予定の見守り交流会の参加を促し、見守りの意識向上に努められるよう図る。</p> <p>上小山田の支え合い連絡会(上小山田ささえ愛会)については、会長もしくは副会長に挨拶に伺い、今年度の予定確認を行っていく。メンバー減少等の困りごとがあれば、解決に向けて助言していく。</p>	
	活動指標	<p>① 挨拶に行くことができた団体数</p> <p>② 活動停滞中の見守りネットワーク団体が、見守り交流会に出席した数</p>	
	目標値	① 挨拶に行った数 5 団体、②見守り交流会出席 2 団体	
	実績値	① 挨拶に行った数7団体、②見守り交流会出席1団体	
	2023年度の成果	<p>① 田端・町有・響きの丘各町会長にご挨拶、老人会として田端ゆうゆうクラブ・宝寿会・みたけシニアーズに状況確認を行った。活動停止したグループもあるが、ほとんどの方が1つの活動ということではなく、新たな活動を始めた方もいる為、ほぼ維持できていることがわかった。関係性の構築も進み町トレ：田端かたくりも立ち上げることができた。引き続き活動状況の確認と介護予防普及啓発を行っていく。</p> <p>上小山田支え合い連絡会の活動は4年間停止していた。活動再開するに当たり、上小山田コミュニティーセンターを利用している自主グループとの交流会を開催する。</p> <p>② 停滞中4団体に交流会出席の話をしたがイベントと重なってしまい沼団地のみ参加。停滞中4団体に於いては、個別対応にて、見守り活動の状況を確認し、見守る側の高齢化の問題も確認される。見守りへの意識を向上していけるよう詐欺被害等の実情を情報共有した。</p>	
実 績			

2024年度に向けた課題	
○停滞中の見守りネットワーク4団体の中で、沼田地・馬場地区は、高齢者世帯が半数近くとなり、他地区より圧倒的にセンターへの相談件数が増えている状況である。今後は、馬場地区の地域実情を確認し、地域訪問を検討していく必要がある。	

取組名②		30～50歳代に向けた、支援センター情報発信	
計 画	目標		
	これから地方在住の親を呼び寄せる可能性のある世代(30～50歳代)が、支援センターの相談窓口としての機能や、開催するイベントなどについて知る機会が増える。		
	2023年度の取組		
	法人HPの更新の継続とともに、小山・小山ヶ丘・相原地区の子育て世代が主に利用する情報発信サイト(小山ヶ丘の住民が立ち上げたもの)である「陽だまりの場所」に掲載させていただき、随時情報更新を行っていく。主に認知症に関わる企画・イベントを中心に、ブログ掲載して周知を図り、関心を持っていただけるように働きかけていく。 認知症や後見制度、詐欺被害等のイベントを開催する際は、ハイブリッドでの開催を試み、オンライン参加が可能となるようし、法人HPや「陽だまりの場所」にて周知していく。		
	活動指標		
	①「陽だまりの場所」ブログ掲載数 ② ハイブリッド開催の家族介護者教室講座開催数		
目標値		①ブログ掲載数5回、②講座開催数1回	
実績値		① ブログ掲載数11回、②講座開催数2回	
実 績	2023年度の成果		
	①	① 高齢者支援センターからの情報発信でブログに講座、介護予防教室、地域イベントの情報を11回掲載した。 介護予防サポーターの記事を子供が見て、子供から養成講座を勧められた方が2名、本人が見て参加された方が1名講座の自己紹介の際直接確認することができた。 ② 11月に認知症講座、12月に任意後見制度講座をハイブリッド式で2回開催。法人HP、陽だまりの場所、サポーターや自主グループのLINEグループでの周知を行い、会場は28人、オンラインでは5人が	

	参加。50歳代までの参加者は6名となり、前年度より増加。子世代への周知へと繋がった。
2024年度に向けた課題	
○子世代からの講座への参加が比較的少ないため、認知度が低いと考えられる。今後も、ブログやホームページへ掲載を続けていく必要がある。また、センターへ相談に来られた際には、相談先をどのように知ったのかなど効果を確認していく必要がある。	

取組名③	多世代交流機会の促進
計 画	目標
	高齢者が、子どもやその親世代と交流する機会が増えることや、子どもに関わるボランティア活動に参加することにより、高齢者自身の介護予防効果をもたらされる。
	2023年度の取組
	2022年度に光明寺を活動拠点とした、多世代が交流できるイベントがいくつか開催された。今年度も実行委員会メンバーとして参加し、企画から関わっていく。小山地区については、地区ミーティングを通して、子どもクラブ「さん」や青少年健全育成の方ともつながりができているため、小さい規模でのイベントを協働で行うことも検討していく。イベントを介して、高齢者と子ども、その親世代とが交流する機会を作っていく。子どもクラブ「さん」や、学校ボランティアコーディネーターとの情報交換を適宜行い、子どもに関わるボランティア活動のニーズがあれば、元気な高齢者とのマッチングにつなげていく。
	活動指標
	① 支援センターが高齢者に紹介できた、多世代交流イベントの回数 ② 支援センターの働きかけで、ボランティア活動に結び付いた高齢者数

	目標値	① 紹介した回数 3 回、②ボランティア活動者数 3 人
	実績値	① 紹介した回数 7 回、②ボランティア活動者数 27 人
実 績	2023年度の成果	
	<p>① オンライン相談拠点出張相談に青少年健全育成の小山リーダーズ(中学生・高校生)が参加してスマホをツールに多世代交流をおこなった。 地域イベントではこども夢広場、おやま夏の音楽祭、おやま観月の夕べ、スポーツわいわい IN おやま、おやまフェスタ、おや GAO フェスにブース出展し、それぞれのイベントを広報や HP に掲載するなど高齢者を含む地域住民に周知・紹介した。</p> <p>② 子どもクラブ「さん」で行われているヨガに参加している保護者のため子どもの見守りボランティアに、7 回延べ 24 人が参加、SOUZOO(子供)食堂のボランティアに 3 名参加した。</p>	
	2024年度に向けた課題	
	<p>① 子どもと高齢者の交流する機会は少しずつ増えてきている。イベント等において、その親世代の運動機能が低下している傾向にあることが分かった。</p> <p>② 現在、ボランティアに参加している方々の高齢化が進んでいる。地域の元気な高齢者の掘り起こしをおこなう必要がある。</p>	

3 市のコメント

<p>(良い取り組みだと感じた点)</p> <p>○高齢化率が低いという地区の特徴を活かし、多世代交流や働く世代への情報発信に取り組むことができたこと。また、高齢者をボランティア活動の場につなげることができたこと。</p> <p>(次年度以降力を入れてほしい点)</p> <p>○今後も、若い世代が多く、子どもを対象にした取り組みに力を入れているという地域特性を活かし、多世代交流や高齢者の活躍の場づくりをすすめてほしい。</p>

2023年度忠生第1高齢者支援センター重点事業計画書兼報告書

以下の項目について、町田市地域包括支援センター運営方針を踏まえて記載してください。

1 担当する地域の現状と課題

担当する地域の現状と課題の中から、特に重要であるものを3点記載してください。

【現状と課題①】

忠生地区の町内会自治会のない地域全戸に自身の関心ごとや人との関わりについてアンケートを実施したところ、地域のつながりが希薄ではあるものの、一番の関心は防災に関することだった。また、近隣の団地においても防災訓練がいつの間にか消滅しているなど不安を抱えていることから、防災についての取り組みをしていく必要がある。

お買い物バス「かしのみ号」の定期運行を開始して1年が経過し、利用希望も増え、コースの拡大や増便を行っている。フォローアップを含めモニタリングをかさねることで移動支援の仕組みを確立し、新たな移動支援の取り組みに向けて他の地区でのニーズを把握する必要がある。

【現状と課題②】

担当エリアの中で最も高齢化率の高い小山田桜台は、支援センターの周知活動や住民との定期的な話し合いを行っているが、具体的な生活課題の解決には至っていない。5年後、10年後を見据えた住民が支え合う仕組み作りを継続していく必要がある。

小山田桜台以外にも高齢化が進んでいる地域があるが、支援センターを知らない住民も多く、相談や地域のグループ活動にもつながりにくい状況にある。地域の中で気軽に相談でき、必要な際に支援センターへ相談できる支援体制を構築し、強化することで地域住民と支援センターのつながりを深める必要がある。

【現状と課題③】

虐待の報告を受けている事例の中で最も多いのが高齢者と障がいを持つ子の世帯である。8050問題等複合的な課題を抱える世帯が増加しており、また、個々の世帯が抱える課題も多様化している中で、早期発見、早期介入に繋げるために、また、包括的に課題を把握し支援できるよう行政、医療機関、高齢者・障がい者関係事業所、警察などと連携、協働することで課題解決を図る仕組み作りが必要である。

虐待事例に限らず、困難な事例等について、ケアマネジャーが家族全体を支援対象と捉えて、家族が抱える問題を解決できるよう、ケアマネジャーのスキルアップを図る必要がある。

2 課題解決に向けた重点的な取組

「1」の課題を解決するため、重点的に取り組む内容について記載してください。

	取組名①	地区の地域課題の解決に向けて働きかけをする		
計 画	目標			
		町内会・自治会のない地区において関心の高い、防災や移動支援、地域づくりに係る課題解決を図る。		
	2023年度の取組			
		<ul style="list-style-type: none"> ・忠生地区内で特に関心のある防災に関する講座等を開催する。 ・忠生地区にて定期運行を行っている住民主体で運営する移動支援の安定継続できる仕組みを確立し、忠生地区以外の外出困難な地区の実態把握をする。 ・忠生地区を含め見守り普及啓発講座の継続開催に向けた働きかけをする。 		
	活動指標			
		①防災に関する講座等を開催数 ②住民・事業者と共に移動支援実施運行中のお買い物バス「かしのみ号」実行委員会の開催数 ③高齢者見守り普及啓発講座(レギュラー・ミニ・交流会)開催数		
	目標値	①1回	②6回	③3回
	実績値	①1回	②6回	③4回
実 績	2023年度の成果			
		①忠生市営住宅周辺地区にて「みんなで考える防災」を実施。60代未満が7名、自治会町内会のない地区からは1名参加。参加者アンケートで災害時の行政支援や避難施設(公助)についての疑問が解消したとの話があった。		
		②利用ニーズが増えた為、運行方法やルートの見直しを行い、毎週定期運行を継続。実行委員会で上がった課題の解決として、緊急時連絡訓練を2回実施。エコバッグの製作、PR 動画の作成を行い、活動の周知を行う。下小山田町、函師町の自治会、自主グループからニーズの聞き取りを行い、地域に合った解決方法について検討を続けていく。 ③構成メンバーが代わった団体への見守り普及啓発講座を開催、見守りポイントの確認に加え、あんしんキーホルダー登録や詐欺被害防止に向けた啓発など活動継続の支援を行った。		

2024年度に向けた課題
<p>①防災をきっかけとした住民同士のつながりづくり(共助)について、市営住宅管理組合長から新住民を含めた防災訓練の検討が必要だと話があった。また、支え合いの町忠生(地域ケア推進会議)で自助・共助について事業所・地域を巻き込んだ話し合いを継続していく。</p> <p>②お買いものバス・かしのみ号については、住民主体で長期的な活動が継続できるよう後方支援を行う。忠生地区以外の移動困難地区に対し、買い物バスにとらわれずニーズ解決の方法を住民、関係機関などと話し合いの場を設けていく。</p> <p>③忠生地区のみならず、身近で孤立死事案が起こると見守りへの関心が高くなる傾向がある。自治会町内会、老人クラブ等団体で見守り機運が盛り上がるところでネットワーク化、ネットワークが困難な団体ではさりげない見守りの実施について働きかけをしていく。</p>

取組名②	高齢化の進む地区を自分ごとと考え自立するためのコミュニティーづくり
画	目標
	<p>小山田桜台をはじめ高齢化の進む地区で高齢者自身の困りごとや地域課題を自分ごととして解決するための取り組みや、住民が共に支え合うための地域コミュニティーづくりを目指す。</p>
	2023年度の取組
	<ul style="list-style-type: none"> ・小山田桜台地区での自治会、社会福祉協議会、UR、介護保険事業所等と連携し、商店街で支援センターを身近に感じてもらうための出張相談会の定期開催の継続と下小山田地区等、他地区での出張相談会の開催。 ・フレイル予防のための講座の開催。 ・小山田桜台地区での自治会、関係団体と連携するための情報交換、課題共有の場の継続。 ・エリア内の中学校や学童保育等での認知症サポーター養成講座の開催。
活動指標	
	<p>①出張相談会の開催数</p> <p>②フレイル予防の普及啓発講座の開催数</p> <p>③地域ケア推進会議(地域支え合い連絡会)の開催数</p> <p>④認知症サポーター養成講座の開催数</p>

	目標値	①6回 ②2回 ③6回 ④3回
	実績値	①10回 ②3回 ③6回 ④4回
実績	2023年度の成果	
	<p>①小山田桜台では出張相談会の集客を増やす為、住民、薬剤師、サービス事業所と協働し、「さくら保健室」と名称を変え商店街イベント時に相談会を継続。下小山田町でも相談会を実施、相談者からのニーズにより町トレ竹桜の立ち上げを行った。</p> <p>②小山田桜台では、4月に地域介護予防教室を開催しポールウォーキングのグループの立ち上げを行った。10月の介護予防月間地域型イベントでフレイル予防講座を開催。下小山田町で、町トレスタート応援講座(フレイル予防講座)を実施、町トレグループを立ち上げ、住民の交流の場ができた。</p> <p>③定期的に情報交換や課題共有の場として継続。それぞれの団体の活動情報を自分達の団体で取り入れる等、活発な情報交換が行われた。また、地区内でお祭が開催される時期には、より多くの情報共有がなされた。同じような課題を持っていると思われるエリア外の活動団体から活動状況の報告や情報交換を実施した。</p> <p>④小山田桜台で新規開設した子どもクラブで、チームオレンジ忠生のメンバーに手伝ってもらい、子供に理解しやすい内容で行った。桜美林中学校では、高齢者疑似体験と認知症サポーター養成講座を行う。自主グループでは、グループメンバーの年齢層が高くなっていることから、認知症の理解を深めたいとの要望により行った。2022年度から開始した小山田中学校でも定期開催した。</p>	
	2024年度に向けた課題	
	<p>①さくら保健室の継続と定着。小山田会館(下小山田町)での出張相談会開催と買い物困難のニーズ解決の為、移動販売導入について働きかけを行っていく。</p> <p>②他の地区での町トレグループの立ち上げを、地域住民が前向きに考えているので実施していく。</p> <p>③住民活動の充実だけでなく、生活支援などニーズ解決に向けた話し合いと働きかけが必要である。</p>	

取組名③		地域の専門職と連携ができるネットワークの構築	
計 画	目標		
	地域の専門職の状況を把握し、問題を解決できるネットワークづくりを目指す。		
	2023年度の取組		
	<p>・8050 問題では、親に対する暴力等による虐待や、親が認知症や疾患などによって子との同居が困難になるなどの問題が起こる可能性があり、起こり得る理由や背景を知ることで未然に防ぐことが可能になるため、相談機関等（行政、医療機関、障がい者関係事業所、警察等）と連携した解決に向けた情報交換会を支援センター主催で継続的に開催する。</p> <p>・ケアマネジャーを対象に、事例検討会を含む勉強会を開催することで、家族全体を支援対象と捉え、情報収集や支援することの再認識を促していく。</p>		
	活動指標		
	<p>①ひきこもり家族等の相談機関との情報交換会の開催数</p> <p>②担当地域のケアマネジャーに向けた勉強会の開催数</p>		
	目標値	①2回	②3回
	実績値	①2回	②3回
績	2023年度の成果		
	<p>①相談機関との情報交換会では、高齢者支援課、生活援護課、保健所、障がい者支援センター、子ども家庭支援センター、警察が参加し、それぞれの機関の専門性や役割、業務の内容やそれぞれの立場でできることなどを共有。複数機関で連携した好事例を持ち寄り、警察と子ども家庭支援センターとの連携や警察、生活援護課、高齢者支援課、元民生委員、地域住民、JKK との連携、生活援護課、子ども家庭支援センター、保健所と連携した事例などを共有した。個別ケース対応時に顔の見える関係作りができたことで、虐待ケースでは、初動は警察と同行、虐待者の今後の対応について、被虐待者、家族、保健所、障がい者支援センターと一緒に相談するなど、スムーズな連携を行うことができた。</p> <p>②6月に「予防プランについて」、10月に「障がい者支援について」、12月に「カスタマーハラスメントについて」の勉強会を開催。10月の「いいケア」では居宅CMが事例を提出し開催。11月に居宅と圏域支援センターと共催で「ケアマネカフェ」を開催したことで、家族全体を支援対象と捉え、情報収集や支援することの再認識ができた。</p>		

2024年度に向けた課題
<p>①顔の見える関係づくりや情報共有のためには、開催回数を増やすことも検討する必要がある。</p> <p>②事前アンケートと事後アンケート、個別で聞き取った中で、事例検討会は各事業所で行っており、勉強会や研修はケアマネ連絡会や他団体で開催しているため、現状では充実している。スキルアップに関しては研修の場も多く、地域のケアマネジャー自身に力もあると感じている。今後は居宅と支援センターに限らず、障がいや他関係機関を含めた連携やお互いの役割などを知り、連携しやすい関係づくりなどをすすめていくことが課題である。</p>

3 市のコメント

<p>(良い取り組みだと感じた点)</p> <p>○小山田桜台の商店街で、市民や他機関と協力して相談会の開催を行い、ワンストップの相談体制づくりをすすめたこと。</p> <p>○買い物バス「かしのみ号」運行や、PR 活動について支援を行えたこと。</p> <p>(次年度以降力を入れてほしい点)</p> <p>○複合的な課題がある対象者への支援がスムーズに行えるよう、地域の専門職同士のネットワークづくりを今後もすすめていくこと。</p>

2023年度忠生第2 高齢者支援センター重点事業計画書兼報告書

以下の項目について、町田市地域包括支援センター運営方針を踏まえて記載してください。

1 担当する地域の現状と課題

担当する地域の現状と課題の中から、特に重要であるものを3点記載してください。

【現状と課題①】

2021年度から「8050問題」等、社会的孤立に関する課題解決に向けて関係機関と連携しながら取り組んできた。近年経済的に困窮している高齢者や高齢者を含む世帯が増加している。ライフラインがストップしてしまっからの相談、家賃滞納による強制執行が目前に迫っからの相談が多い。年金額によっては生活保護申請の対象にならず、負債を抱えている状況では適切な医療・介護につなぐことも困難である。このようなケースの対象者は、認知症等のため判断能力が低下しているにも関わらず適切な支援につながっていないことが多く、近隣住民に迷惑が及んでしまい苦情があがることもあり地域課題となっている。

【現状と課題②】

忠生第2エリア内にある大型集合住宅(山崎団地、町田木曾住宅)は賃貸の物件が圧倒的に多い。同じ大型集合住宅でも分譲のエリアは定住率が高く、住民同士の助け合いや見守りに対する意識が高く自主的な活動が多く見られるが、賃貸のエリアは住民の入れ替わりがあるためか助け合いや見守りに関する自主的な活動があまり見られない。今後高齢化率が上がり、独居高齢者や高齢者のみ世帯、孤食者、経済的困窮者等が増加することを考えると、地域住民が主体となる通いの場や見守り体制を増やし、充実させていくことが求められている。

【現状と課題③】

高齢化率が高く、生活習慣病も多い。未受診者は約2.5%となっており、医療中断ケースも多く、状態の悪化を招いているケースが増えている。圧迫骨折などの筋、骨格疾患で突然動けなくなると、5階建ての団地にエレベーターがないため日常生活に支障をきたすケースも増えている。要支援、要介護認定者が急増し、行政サービスだけで対応する事が難しくなっている。高齢者自身が健康づくりに対する意識を高めていくために、オーラルケアも含めた介護予防の普及啓発活動を行う必要がある。活動が休止しているグループもあり紹介出来る社会資源が少ない、自主グループ再開の支援、新規の自主グループの立ち上げ、オンラインを活用した交流を図る必要がある。認知症、認知機能低下者が増え、地域住民とのトラブルが増えているため住民の理解、協力を図るために人材の育成を行っていく。

2 課題解決に向けた重点的な取組

「1」の課題を解決するため、重点的に取り組む内容について記載してください。

	取組名①	社会的に孤立した状況を未然に防ぐ。	
計 画	目標		
		複合的な課題を有する住民に対して他機関との協働した支援を継続しつつ、ライフラインが断たれる・住まいを失う等の状況に陥ることのないよう、複合的な課題を有する住民を多機関の協働により支援することができる。	
	2023年度の取組		
		<p>① 他機関と連携した支援を行っているが、対象となるケースは後を絶たず、目標とする生活に到達するまでに時間を要し、近隣住民とトラブルになるケースも発生している。心身状況が悪化しても住み続けることができる地域づくりのために、医療、福祉関係者だけではなく、地域住民等も含めた検討の場を持つ。</p> <p>② 料金滞納によるライフラインのストップ、家賃滞納による強制退去を未然に防ぐことができないか、関係機関の立場でできること、できないことを情報共有する。</p>	
	活動指標		
	<p>① 地域ケア個別会議の開催</p> <p>② JKK・UR、水道局等と高齢者の身体状況などについての情報交換会の実施。</p>		
	目標値	① 年3回 ②年3回	
実 績	実績値	① 年3回 ②年4回	
	2023年度の成果		
		<p>① 地域ケア個別会議は以下のテーマで開催</p> <p>1 5/16 精神疾患のため支援拒否を続けているケースについて</p> <p>2 11/13 「8050 問題」のケースについて</p> <p>3 11/20 認知症、独居高齢者のケースについて</p> <p>参加者は行政や、医療福祉関係者、UR 職員、成年後見人。8050 問題では、当事者である高齢者と息子、息子が働く職場の同僚や産業医、にも参加いただいた。</p> <p>各回、参加者との情報共有と同時に支援方針の決定、関係機関の役割分担を明確にした。</p> <p>② JKK・UR、水道局等との情報交換会は以下のとおり開催</p> <p>1 4/21 JKK 住まいるアシスタント、管理事務所職員と情報交換開催。</p> <p>管理事務所の方に高齢者支援センターの周知に協力いただくよう依頼した。</p>	

	<p>2 6月に水道局職員と情報交換会を実施 高齢者支援センターの地域で行っていることを説明した。</p> <p>3 5/17 URと情報交換 出張相談会の開催方法や、他にも連携できる所がないか検討した。</p> <p>4 7/4 ネコサポステーションと地域の高齢者について情報交換を開催 連携して行うことができる活動について検討した。</p>
	<p>2024年度に向けた課題</p> <p>地域に共通する課題を地域ケア個別会議で抽出し、課題解決に向けて他機関と話し合いを重ねてきたが、更にケース対応時に地域課題抽出につなげる視点を、センター職員が持つ必要がある。</p> <p>ライフラインのストップや家賃滞納による強制退去を未然に防ぐことについては、単年でできる内容ではないため、次年度以降も継続して取り組む。</p>
<p>取組名②</p>	<p>大型集合住宅特有の課題解決にむけ、住民が主体となった通いの場、見守り体制を増やす。</p>
<p>計 画</p>	<p>目標</p>
	<p>通いの場や見守り体制を増やすことで、高齢者の小さな変化に気づくことができ、問題の複合化を防ぐ。</p>
	<p>2023年度の取組</p>
	<p>① UR、JKKとの連携を更に深め、協働した集いの場、相談の場づくりを目指す。</p> <p>② 支援センターの事務所が移転し山崎団地名店会に加入した。名店会は地域住民が立ちよる場所であるため連携を深めるとともに、見守り講座を実施し高齢者の見守り等に関して理解を深めていただくようにする。</p> <p>③ 地域への関心が低く、助け合いや見守りに関する自主的な活動がない地域での持続可能な見守り体制を強化するため、当該地域での見守り会議の立ち上げ支援を行う。</p>
	<p>活動指標</p>
<p>① UR、JKKと協働した相談の場、集いの場づくりに向けた話し合いを実施。</p> <p>② 山崎団地名店会を対象とした見守り講座の実施。</p> <p>③ 新たな地域で見守り会議の開催。</p>	

	目標値	① 年4回 ②年1回 ③年1回
	実績値	① 年4回 ②年1回 ③1回
実績	2023年度の成果	
	<p>① 「あさがおテラス」は毎月第2火曜日に定例開催を実施。その内6/13、11/14はJKK 住まいるアシスタントとの共同企画（ボッチャ・ダーツの体験）で開催した6/2URと合同出張相談会を開催し、地域住民にURの見守りサービスやあんしんキーホルダーの情報発信を行い、希望者に対して登録を行った。2月にも合同出張相談会を予定している。</p> <p>② 山崎団地名店会が企画する行事(ちやおちゃお祭りなど)に参加して連携を深めることができた。山崎団地名店会のプラスハートのスペースを借りて、1月に名店会対象の見守り講座を開催予定。</p> <p>③ 10/2 町田木曾住宅自治会の会長と話し合いの場を持ち、見守り会議立ち上げについて投げかけを行った。1月～2月にかけて、町田木曾住宅を担当している民生委員や元民生委員の協力を得て会議開催を実施する予定。</p>	
	2024年度に向けた課題	
	<p>集いの場づくりを行ってきたが、エリア内全体には至っていないため継続して取り組み、多様な住民が気軽に集うことができる社会資源を作っていく必要がある。</p> <p>高齢者に限らず多世代でさりげない見守りを広げることができるよう、見守り会議が定着するような働きかけを行う。</p>	

取組名③		フレイル・介護予防普及啓発活動を行う。
計	目標	<p>① フレイル、要支援者が少なくなる。</p> <p>② 通いの場が増え社会資源が増える。</p> <p>③ オンラインを活用した活動が出来る。</p> <p>④ 介護予防サポーターが増える。</p>
	2023年度の取組	<p>① 介護予防普及啓発講座を行う。</p> <p>② 介護予防月間型イベント:多世代交流、測定会、介護予防の講演、福祉関係事業所との連携。</p> <p>③ みんなの輪・夢ガーゼプロジェクトの実施。</p> <p>④ オンラインを活用した支援:つながる☆ダンス・オンライン相談拠点の実施。</p> <p>⑤ 通いの場づくり・町トレの立ち上げ支援。</p> <p>⑥ 休止している自主グループ再開支援。</p> <p>⑦ 自主グループ内相互支援促進のための活動</p>
画		

	活動指標	
	① から⑥に対するの企画、実施回数。	
	目標値	① 2回 ②1回 ③1回 ④10回 ⑤2回 ⑥1回⑦1回
	実績値	① 5回 ②1回 ③2回 ④11回 ⑤2回⑥5回 ⑦1回
実績	2023年度の成果	
	① 木曾南さくら会、松寿会、竹芳会、シーアイハイツたすけあいの会、いきいきサロン境川で実施した。	
	② 10月21日「にこにこ健康フェスティバル2023」実施。自主グループ活動、桜美林大学サークルなどの活動発表、介護予防に関わる講演、骨密度測定などを行った。会館前の外のスペースで、福祉関係事業所が作品展示を行ったり、山崎団地名店街の飲食店による出店の協力を得ることができた。ふれあいくぬぎ館も共催という形でスペースを提供いただいた。	
	③ 保健所が所有する布マスクの在庫がなくなったため、夢ガーゼプロジェクトは終了となったが、沐浴用ガーゼ約1900枚を保健所に納品した。新たな取り組みとして認知症マップを作成する活動を開始した。	
	④ 木曾山崎コミュニティーセンターとまちの保健室で交互に実施。 ⑤ 町トレグループ立ち上げ希望がある木曾上宿町内会で12月に話し合いを行い、活動場所が確保できれば立ち上げ支援を開始する予定。2月から地域介護予防教室を開催し、ボッチャの自主グループ立ち上げに取り組む。 ⑥ 5グループに対して再開支援を行った。 ⑦ 自主グループ情報交換会を実施。	
	2024年度に向けた課題	
	毎年同じ自治会などから普及啓発講座開催の依頼があるため、新規を増やすためにセンターだよりなどを活用し情報発信を行う。 新たな自主グループ活動の立ち上げ支援が思うように進まなかったため、次年度も継続して取り組む。	

3 市のコメント

(良い取り組みだと感じた点)

○複合的な課題をもつ住民の早期発見や支援のために、多機関が参加した個別会議の開催や、ライフラインに関わる事業所等との情報交換を実施したこと。

○UR や JKK、地域の事業所等と協力し、情報の発信や集いの場づくり、見守りの体制づくりを行うことができたこと。

(次年度以降力を入れてほしい点)

○複合的な課題を抱える住民を支援するためのネットワークづくりを、今後も引き続き継続していくこと。

○高齢化率の高い団地住民を対象に、介護予防の普及啓発と、社会参加ができる場づくりを行いながら、地域を支える人材の発見と育成、見守り体制の構築もすすめること。

2023年度鶴川第1高齢者支援センター重点事業計画書兼報告書

以下の項目について、町田市地域包括支援センター運営方針を踏まえて記載してください。

1 担当する地域の現状と課題

担当する地域の現状と課題の中から、特に重要であるものを3点記載してください。

【現状と課題①】

鶴1エリアは市内の中で成人健康診査受診率が1番高いが、『地域活動に参加している』『交流する友人がいる』割合は平均より低く、独自の取り組みや個人での活動を行っている人が多い現状がある。なかでも野津田町はエリアの中で2番目に高齢化率が低いのに対して相談割合が1番高く、健康や介護予防に対する取り組みが十分に行えていない可能性がある。また金井ヶ丘は高齢者人口比に対しての自主グループが最も不足している。両地域ともに面積が広く、活動できる場所に偏りがあるため身近な環境で人と交流しながらフレイル・介護予防に取り組むことが難しい現状にある。そのためこの野津田町、金井ヶ丘を重点地域と設定し、フレイル・介護予防に取り組んでいく必要がある。また地域のニーズを把握し、身近にある既存の資源を活用することで意欲・意識の向上に繋げていく。

【現状と課題②】

高齢者を含め家族として複雑化した課題を抱える世帯が増えており、それぞれが個人として尊重される生活を送れるよう、権利擁護支援を強化していく必要がある。エリア内の地域は高齢者人口に比例する形で虐待・ヒヤリハット件数が増加傾向にある。そのうち70%以上の被虐待者が要介護認定を受けている。このような状況下で早期発見・対応のみならず、未然に防ぐ取り組みも求められる。専門職種、多機関との協働による包括的支援体制を強化しつつ、地域住民の支援センターの理解や権利擁護の認識を高め、地域での抑止力の強化に繋げていく。またこのようなケースを支援していくセンター職員は個々のスキルとチームアプローチ力の向上に努めていくとともに自身の身体的・精神的健康状態を維持していく必要がある。

【現状と課題③】

近年、コロナの影響で地域での見守り意識の低下が危惧されている。支援センターではあんしんキーホルダー普及・利用促進に力を入れ、年々登録数を増やしているが、75歳以下の登録者が少ない現状や地域によって意識の差もみられている。地域別の登録者割合は小野路町が一番低く、次に金井ヶ丘、金井、大蔵町が同値となっている。支援センターやあんしんキーホルダー自体の認知度が低いこともあるが、あんしんキーホルダーに対して誤ったイメージを持っていることや、自分は大丈夫との主観的な安心から必要を感じていない方がいることも要因である。また地域活動が停滞していたことで支援センターと自治会・老人会等の団体との関りも減っていたため、以前のような地域との繋がりを回復させ、多世代が地域でさりげなく互いを見守る意識作りの再構築が必要である。

2 課題解決に向けた重点的な取組

「1」の課題を解決するため、重点的に取り組む内容について記載してください。

取組名①	地域資源を活用したフレイル・介護予防の推進	
計 画	目標	
		地域の資源を活用することや住民への意識・意向調査を行うことで身近にフレイル・介護予防を意識し、取り組むことのできる環境を作る。
	2023年度の取組	
		<ul style="list-style-type: none"> ・野津田町、金井ヶ丘で地域資源(企業や店舗等の場所や専門職等の人材など)を活用して講座等を開催し自主グループ立ち上げ支援を行う。 ・金井ヶ丘、金井での実態把握時に介護予防・健康づくりに対する意識調査の協力依頼を行い、結果の集計・分析を踏まえた普及啓発の取り組みを検討する。 ・地域ケア推進会議で取り組んだフレイル予防活動を継続し、栄養面から取り組める高たんぱくレシピを地域の店舗や事業所等へ常設させてもらう(月1回更新)。 ・既存の自主グループに対しても定期的な活動状況確認と継続支援を行っていく。スマホを活用したメンバー間での情報共有を推進していく。
	活動指標	
		①講座開催数、自主グループ立ち上げ支援回数 ②意識調査実施数 ③レシピ設置場所数 ④町ネットサポーター養成講座・オンライン交流会の開催
	目標値	①各2回以上②15件以上/月(平均)③4か所以上 ④各1回
実 績	実績値	①野津田町1回、金井ヶ丘では実施できず ②21件/月平均③4か所+市外④各1回開催
	2023年度の成果	
		<ul style="list-style-type: none"> ・今まで立ち上げの実績のない野津田町丸山地区で地域介護予防教室を開催し、背骨コンディショニングの自主グループ(かわせみ友の会)が立ち上がった。金井ヶ丘では開催場所確保が難航し講座開催ができなかったが、12月から大蔵町で町トレ応援講座開始、1月グループ立ち上げ予定となる。 ・金井ヶ丘、金井地区で月平均21件のアンケート調査を実施できた。介護予防や地域参加の有無などについて伺い、内容を分析、次年度の検討材料とした。 ・リハビリ特化型半日デイサービス4か所にレシピを設置した。うち1か所のデイが系列市外事業所(3か所)でも設置したいとの希望あり、地域ケア推進会議栄養部会で検討・了解得て、設置した。 ・既存の全グループには年2回の連絡・訪問と年1回のはがきによる活動状況調査を実施した。また町トレ4グループに継続支援講座を開催した。またグループでの活動者を対象に町ネットサポーター養成講座を実施し、講座終了後に過去の2年間の受

	講生との合同でオンライン交流会を開催した。
	2024年度に向けた課題
	企業や学校にも働きかけたが、金井ヶ丘での活動場所確保が困難であった。アンケート調査の内容も踏まえて、活動場所となる社会資源を発掘して、通い場の数・通い場の利用者が減っている金井ヶ丘・金井地域でのグループ立ち上げを引き続き行っていく必要がある。またすでに連絡手段等にスマホアプリを活用しているグループも多く、オンライン講座継続の必要性については検討する必要がある。フレイル予防のレシピにはアンケート(QRコード)と一緒に掲載しているが、回答率が低いため、利用者の声を踏まえたレシピを作成しフレイル予防につなげられるようアンケートの回収促進にむけた工夫を検討する必要がある。

取組名②		権利擁護の理解促進と包括的支援体制の強化
計 画	目標	地域住民、専門職等への普及啓発活動を通じて権利侵害の予防に繋げ、個々のケースには適切かつ迅速な支援が行えるようセンター内外の連携体制を構築する。
	2023年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・鶴川保健センター、鶴川障がい者支援センター、町田市社会福祉協議会、医療と介護の連携支援センター、鶴川第2高齢者支援センターの計6機関が参加する『鶴川圏域相談支援機関連携会議』を継続開催し、互いの機能を活かした効果的な連携を深めていく。 ・地域住民へ広報誌や講座等の開催を通じて、センターの機能を周知し、権利擁護について理解を促すことで、意識向上に繋げる。 ・地域のケアマネジャー向けに権利擁護に関する情報共有や事例検討などの勉強会を開催する。 ・職員の専門的スキル向上と健康維持のため、センター内でソーシャルワークや心理学の専門家によるスーパービジョンやメンタルヘルスの研修を実施する。
	活動指標	①「鶴川圏域相談支援機関意見交換会(連携会議)」開催回数 ②住民向けと専門職向けに権利擁護に係る普及啓発の実施回数 ③スーパービジョン・メンタルヘルス研修実施回数
	目標値	①4回②各1回以上③計4回
	実績値	①4回(3月開催予定)②各1回③スーパービジョン:3回(2月予定)、メンタルヘルス:1回(3月予定)
	実績	
	績	

	<p>2023年度の成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6、9、12月に開催。9月の会議では鶴川保健センターの提案で心のサポーター養成研修を兼ねて実施した。複合的な課題を抱えるケース検討を通じて互いの専門性を理解し、効率よい連携・協働に繋げた。具体的には、他機関との相談対応体制について共有やまちだ福祉○語とサポートセンター鶴川との連携方法についての確認や事例検討を行った。 ・年4回発行の広報誌には権利擁護関連記事を毎回掲載した。記事内容としては、権利擁護や虐待防止や成年後見制度の講座、悪徳商法防止などの講座が支援センターで開催できることの案内などである。住民向けには12月の家族介護者交流会で『権利擁護って？～家族の思いを踏まえて考えよう～』をテーマとして話し合う予定。 ・地域のケアマネジャー向けには7月ケアマネカフェで『高齢者虐待の防止』というテーマで実施した。2事例の検討を踏まえて理解を深め、専門職として早期発見・介入の視点や動きについて再確認した。 ・スーパービジョン研修は大妻女子大学丹野先生に依頼し、6、11月に少人数のグループで実際関わったケースについて振り返り、気づきを深めた。その中で、情報収集や整理、記録や聞き取りなどの方法や行政や関係機関との役割の明確化を図ることをアドバイスとして受けた。次回は2月を予定。日々、困難なケース対応が多い中で職員自身が疲弊しないように、自分で自身のメンタルコントロール、メンタルケアができるよう、メンタルヘルス研修を東京成徳大学関谷先生に依頼し、3月実施予定。
	<p>2024年度に向けた課題</p> <p>地域向けに発信はしているが権利擁護に関する興味関心が高くなく、意識向上まで至っていない実感がある。テーマ自体が身近に感じられないこともあるため、分かりやすいテーマ設定や内容の工夫、関心を持ってもらえるような周知活動に力を入れる必要がある。また、地域との関わりがないことで権利侵害や虐待に繋がる可能性もあるため地域活動に参加しない・交流を持たない住民や情報共有の場に参加しないケアマネジャーにどのようにアプローチしていくかが課題である。また、対応するセンター職員も入退職、異動等により変動あり、経験やスキルも異なるため今後もスキルアップの取り組みが必要である。</p>

<p>取組名③</p>	<p>見守りに対する意識・機能の回復とあんしんキーホルダーの普及・活用促進</p>
<p>計画</p>	<p>目標</p> <p>地域の見守り意識・機能をコロナ前のように戻し、あんしんキーホルダーの利用促進を図ることで緊急時の早期対応に繋げ、地域で安心して生活ができる体制を作る。</p>

実績	2023年度の取組	
	<p>・見守り活動を行う地域住民、団体に対して情報共有や理解を深める機会をもち、活動の成果ややりがいに繋げる。</p> <p>・小野路町・金井ヶ丘・金井・大蔵町でのあんしんキーホルダー活用促進ポスターの掲示場所を増やし、周知と登録会開催に繋げる。地域の会合・イベントへの参加や講座時の案内を通じてセンターの周知とキーホルダーを含めた見守り機能の必要性を伝えていく。</p> <p>・あんしんキーホルダーは前年度以上の年間登録数を目標に掲げ取り組んでいく。</p> <p>・2016年4月～2018年3月に新規登録している長期登録者に対して登録内容の確認調査を行い、情報の整合性を図る。</p>	
	活動指標	
	①見守り通信の発行と交流会(講座)開催 ②掲示場所の発掘③登録会の開催回数 ④あんしんキーホルダー登録件数 ⑤状況調査の実施	
	目標値	①2回以上発行、1回以上開催 ②4か所以上 ③4回以上 ④14件以上/月(平均) ⑤実施
	実績値	①2回発行(2月発行予定)、1回開催②8か所③7回 ④16件/月平均⑤実施(1月予定)
	2023年度の成果	
	<p>・見守り通信を8月に発行、次回は2月発行予定。今年度から民生委員にも送付している。9月にあんしん連絡員、見守りネットワーク、民生委員を対象とした見守り交流会を開催し、町田警察署員から特殊詐欺の現状や防止策を教えてもらい、日ごろの見守り活動の情報共有を行った。</p> <p>・新たなポスター掲示場所は歯科、コンビニ、薬局、サービス事業所、個人商店等で8か所、全エリア合計は11か所となった。あんしんキーホルダー登録会開催は7回で、全エリア合計では9回開催した。</p> <p>・長期登録者の確認調査については1月に案内を送付予定。</p>	
	2024年度に向けた課題	
	<p>コロナの影響もまだ残っており、小規模・1年任期制の自治会・町内会等とは積極的な関係構築が難しかった。アプローチしやすい地域団体に偏ってしまう傾向もあるため、引き続き地道な周知活動、関係形成が必要である。併せて近隣と交流を持たない世帯や独居世帯の状況把握もセンターだけでは十分に行えないため、講座等の開催から繋げて地域で関心を持ってもらうことが必要である。地域に入るきっかけや企業・団体等と繋がりをもつ機会を作っていくことが課題である。またあんしんキーホルダーの理解促進にむけて登録会等の場所に来ない住民へのアプローチを検討していく必要がある。</p>	

3 市のコメント

(良い取り組みだと感じた点)

○地域ケア会議から、フレイル予防を目的とした栄養レシピを作成し、事業所や店舗に設置し地域の住民に周知を図れたこと。

○ケース対応について、スーパービジョン研修やメンタルヘルス研修を実施し、職員のスキル向上につとめたこと。

(次年度以降力を入れてほしい点)

○金井ヶ丘、金井地区で実施した意識調査の結果を、次年度の事業企画に活かし、実施すること。

2023年度鶴川第2高齢者支援センター重点事業計画書兼報告書

以下の項目について、町田市地域包括支援センター運営方針を踏まえて記載してください。

1 担当する地域の現状と課題

担当する地域の現状と課題の中から、特に重要であるものを3点記載してください。

【現状と課題①】

- ・認知症やフレイルに関する相談が増加しているが、家族の理解不足などから、早期での介入が出来ず、スムーズに介入出来ないケースが増えている。
- ・認知症サポーター養成講座受講者から、講座終了後どのように動けばよいのかわからないという意見が出ている。
- ・支援センターの職員が「認知症」を支援する地域活動の状況や課題を把握し、整理することで、ネットワークを強化し、早期の介入につなげていく必要がある。

【現状と課題②】

- ・高齢化率:鶴川 35.3%、三輪緑山 41.6%、三輪町 21.7%
- ・2022年度、自主グループ6グループが解散、6グループが休止となり、通いの場が減少した。原因として、リーダーの体調不良や、高齢化によるメンバーの減少、会場費が払えない等で、現状のグループ活動の継続が難しくなっている。
- ・通いの場が減少し、運動・他者との交流機会が減り、心身機能の低下が進んでいる。

【現状と課題③】

- ・三輪地区にて地域住民より認知症高齢者の見守りについて不安があると声が上がっている。地区内に賃貸アパートも多く、圏域内でも2番目に単身高齢者の居住率が高くなっている。賃貸アパート居住の方は、地域の活動への参加も少ない為、直接話をする機会がない。
- ・集合住宅に居住し、町内会や老人会など地域活動に参加していない高齢者の見守りや、地域の活動の場への参加の促しが難しい状況となっている。
- ・活動拠点となる施設が少ない為、徒歩圏内で参加できる自主活動グループが立ち上がり難く、古くからの住民と新しく居住し始めた住民との交流の場が少ない等の課題を抱えている。

2 課題解決に向けた重点的な取組

「1」の課題を解決するため、重点的に取り組む内容について記載してください。

取組名①	認知症を受け入れる地域活動状況の把握	
計 画	目標	
	地域活動を訪問し、活動状況などを把握することで、「(仮称)鶴2版Dマップ(認知症を持つ方でも参加が出来る社会資源マップ)」の次年度以降の作成に向けた情報収集を行う。	
	2023年度の取組	
	<p>① 認知症の方が利用できる地域活動等を把握し、地域活動の活用が進むように、地域住民や地域を担当している専門職などへの情報提供が行えるようなツール「(仮称)鶴2版Dマップ(認知症を持つ方でも参加が出来る社会資源マップ)」の作成に向けた検討を行う。</p> <p>② 認知症の方が利用できる地域活動等に参加しながら、地域活動の活動状況や活動上の課題を把握していくと共に、防災への取り組み状況などの把握を行う。</p>	
	活動指標	
	<p>① 地域活動への訪問回数</p> <p>② 認知症の方の受入れ状況等共通の聞き取り事項が確認出来るように「聞き取りシート」を作成</p>	
目標値	① 5グループ以上に訪問②聞き取りシートの作成	
実績値	① 16グループ訪問 ②聞き取りシート作成・活用	
実 績	2023年度の成果	
	支援センター内の複数の専門職が協働し、共通の聞き取りシートを使用しながら、認知症の疑いがある利用者に対してどのような対応をとっているか、活動上での困りごとはないかなど、自主グループ16ヶ所を訪問して聞き取りを行った。また、地域団体を支援し、新たに2か所のDカフェが立ち上がり、社会資源マップに掲載した。	
	2024年度に向けた課題	
	共生社会やノーマライゼーションの観点から、地域向けの社会資源マップを作る上で「認知症」を別枠として捉えるか、既存のマップへ統合するか検討が必要。自主グループに聞き取りをした内容も踏まえながら「(仮称)鶴2版Dマップ(認知症を持つ方でも参加が出来る社会資源マップ)」の在り方を含め検討していきたい。また、既存の自主グループにおいて、認知症の方を見守れるようになるような側面的な支援を検討し、対応力が向上出来るよう、引き続き取り組む必要がある。	

取組名②	住民が気軽に参加し、継続的に活動できる通い場づくり	
計 画	目標	
	① 通いの場を作り、運動や交流機会を増やす。② 既存の自主グループの活動が継続できるよう、支援センターとの関係性を深める。	
	2023年度の取組	
	② 三輪地区と鶴川団地で町トレやラジオ体操を行う自主グループを立ち上げる。 ②毎月1回、1グループは支援センター内複数専門職にて訪問し、自主グループの状況確認と、支援センターで作成している介護予防普及啓発等の講座の案内チラシをお渡しする。	
	活動指標	
	① 自主グループ立ち上げ数 ② 既存の自主グループ訪問数	
	目標値	① 各地区1グループ ② 10グループ以上
	実績値	① 鶴川 1G、三輪町 1G(予定) ②16グループ
実 績	2023年度の成果	
	鶴川地区の中でも、町トレグループが無かった鶴川団地2丁目にグループが立ち上がった。通いの場の少ない三輪町でも体操が出来るグループが立ち上がる予定。毎月支援センター職員2名で鶴川と三輪地区を中心とした自主グループを訪問し、講座の案内や困りごとなど聞き取り。その中から継続支援としてちよい足し講座を4グループ(延6回年明け2回予定)、普及啓発講座を1グループ行うことができた。 また、圏域合同で開催した、6月の自主グループ交流会、10月の月間イベントでは各5～6G 自主グループ紹介の掲示を行った他、広報誌に自主グループメンバー募集の記事を掲載{三輪町1G、鶴川1G}。新規に立ち上がった鶴川 2 丁目町トレのチラシ作成の協力と自主グループマップへの掲載を行った。	
	2024年度に向けた課題	
	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度訪問できていない自主グループが半数以上あるので、状況確認を行い、支援センターとの関係を深める。 ・訪問をしていく中で、地域には既存のおしゃべり会がいくつかある事を知った(真光寺3丁目、鶴川2丁目、三輪町等)。介護予防や認知症の方への対応等に関心が高い方が多く、介護予防教室等を実施して自主グループの立ち上げ支援を行う。 	

取組名③	三輪地区居住単身高齢者のつながり作り	
計 画	目標	
	三輪地区内集合住宅に居住する単身高齢者のニーズを把握し、地域とのつながりを作る。	
	2023年度の取組	
	① 集合住宅に居住する 75 歳以上の高齢者に地域活動への参加の有無や活動の希望等のニーズ調査のアンケートを戸別訪問で実施する。	
	② 引き続き、三輪地区内で行われている交流の場と自主活動団体の活動状況を確認し、センターとの関係づくりを行う。	
	③ 町内会自治会、老人会、民生委員、介護保険サービス事業所、自主活動グループなどにアンケートの結果を報告し、今後の地域活動や見守りの仕組みづくりを検討するため、支え合い連絡会を開催する。	
	活動指標	
①ニーズ調査の実施 ②町内会自治会や老人会の活動状況を把握する為の訪問回数 ③支え合い連絡会の開催		
目標値		①ニーズ調査実施 ②2 回以上 ③1回以上
実績値		①ニーズ調査実施 ②9 回訪問 ③1回(予定)
実 績	2023年度の成果	
	2022年度に行った三輪地域支え合い連絡会にて、地域の集合住宅にお住いの単身高齢者とのつながりが無いとの課題があがり、実態把握のための調査を行う。集合住宅お住いの75歳以上単身者96名に全戸訪問。アンケート回答35名協力をいただく。地域情報が把握できない、体操などには参加したいなどのアンケート結果を踏まえ、2024年2月10日に今年度の三輪地域支え合い連絡会を開催し、今後のつながりづくり等検討を行なう予定。	
	2024年度に向けた課題	
	実態把握アンケート結果より、老人会や町内会自治会に未加入の高齢者へ、地域情報が届きにくい実情が分かった。今後どのように情報をお伝えし、地域とつながりをもてるようアプローチするか、引き続き支え合い連絡会参加の地域団体と協議が必要。	

3 市のコメント

(良い取り組みだと感じた点)

○三輪地区において、住民の声から把握した地域課題から集合住宅への実態調査を実施し、結果について住民と共有する地域ケア会議開催を企画・実施できたこと。

(次年度以降力をいれてほしい点)

○鶴2版 D マップについて、地域団体からの聞き取り結果を活かし、次年度の作成をすすめていくこと。

2023年度町田第1高齢者支援センター重点事業計画書兼報告書

以下の項目について、町田市地域包括支援センター運営方針を踏まえて記載してください。

1 担当する地域の現状と課題

担当する地域の現状と課題の中から、特に重要であるものを3点記載してください。

【現状と課題①】

2022年度に木曾森野都営住宅3棟にて実施した生活実態調査によると高齢世帯では夫の家事能力が低く、すべての家事を担っている妻が家を空けられない。妻は入院加療が必要な状態となっても、通院で対応せざるをえなかったり必要な手術を受けられなかったりした事例があった。高齢世帯における健康寿命の延伸のためには夫の家事能力が向上し、それぞれの自立支援が必要である。

【現状と課題②】

JAGESによると「社会参加が少ない」「友人と会わない」「うつ」が多く人との交流が少ないことで健康を害する高齢者が多い。また、原町田や中町地区では町トレグループの会場の定員により新規加入希望者がいても参加できない現状がある。

エリア内で通いの場の広報を行い、周知を行う必要がある。また、通いの場が不足しているエリアで、新規グループの立ち上げや、コロナ禍で活動が停滞している既存グループへの継続支援が必要である。

【現状と課題③】

2022年度開催した家族介護者教室『認知症の家族への接し方』には定員を大幅に超える申し込みがあった。コロナ禍で人と接する機会が減り、家族介護者が相談する場が減り孤立しがちになっていることが推察される。また、毎月開催しているオレンジ cafe ポピーには介護に悩む家族やうつに悩む方の参加もあり、参加者同士の支えあいの場ともなっている。現在あんしん相談室で開催しているカフェを他地区でも開催し、家族支援や居場所・支えあいの場を増やす必要がある。

2 課題解決に向けた重点的な取組

「1」の課題を解決するため、重点的に取り組む内容について記載してください。

取組名①		『男の家事教室(仮)』を開催する	
計 画	目標	生活実態調査実施地区で男性を中心とした家事教室を開催し、高齢男性の自立支援を行う。	
	2023年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> 生活実態調査の結果を実施地区で共有し、高齢世帯又は独居の男性を対象とした『男の家事教室』を開催する。 調査結果で妻が家を空けられなかった要因から、食生活を中心とした健康的な生活に必要な生活能力に着目した講座を開催する。 当該地域でのラジオ体操や自主グループも男性の参加が少ないことから、男性は交流の機会が少ないことが推測される。棟単位で開催する交流の場『井戸端会議』を継続し、地域での支えあいを促進する 	
	活動指標	『男の家事教室』の開催	
	目標値	1回	
	実績値	1回	
	2023年度の成果	10月25日～11月29日に6回シリーズで「男の家事教室」を開催し、重点地区である木曾森野都営・森野地区から独居・高齢世帯の男性9名の参加を得た。掃除や料理をいかに簡単に、時間をかけずに効果的に行うかのコツを学んだ。参加者のうち6名は料理の自主グループとして活動することになり、「昭和友の会」が立ち上がり、男性高齢者の貴重な通い場ができた	
実 績	2024年度に向けた課題	6名と参加人数が少ないため、役割分担や会場確保などが自主的に行えることが課題となる。定期開催できるように活動支援を行う。また、参加者数が少なく活動中断となる恐れもあり、新たな社会資源としての周知が必要である。	

取組名②		通いの場の周知と不足している地域での活動支援を行う	
計 画	目標		
	高齢者の社会参加促進のため、通いの場の周知と、不足している地域での活動支援を行い、希望する方が参加できる資源を整える。		
	2023年度を取組		
	<ul style="list-style-type: none"> ・社会資源冊子の年1回の更新を継続、配架する場所を増やし周知を行う。 ・通いの場活動支援として定期的に訪問し、活動状況・新規受け入れ状況の把握・不足している地域の把握を行う。 ・通いの場が不足していると思われる原町田・中町地区での新規立ち上げを行う。 ・既存グループへの活動支援として『ちょい足し講座』を開催する。 		
	活動指標		
	社会資源が不足している地域での町トレ立ち上げ		
	目標値	一か所	
	実績値	二か所	
実 績	2023年度の成果		
	<ul style="list-style-type: none"> ・社会資源冊子の掲載情報を更新し、適宜配架を行っている。薬局など配架先を増やすことが出来た。 ・既存グループを定期訪問し活動状況を把握し職員間で共有、問い合わせへタイムリーに対応できる体制をとっている ・森野4丁目アパートと木曾森野第1アパートA棟の2グループを立ち上げた。 ・町トレグループ『森野1丁目団地』でちょい足しプログラム学習会(認知症予防)を開催、他「口トレ」を1グループへ、「Eトレ」を4グループに実施し活動支援を行った 		
	2024年度に向けた課題		
	<ul style="list-style-type: none"> ・原町田地区の町トレグループが会場の都合で新規参加者の受け入れが難しく、新たに立ち上げを働きかけたが、会場が見つからず立ち上げに至らなかった。あんしん相談室で開催しているグループも多く、使用できる会場の情報収集を継続する。 ・中町地区は休止していた2グループが再開できたが、1,2丁目が少ないという偏りは解決できていないため、不足地区の新たな社会資源創出に向け、一般企業へのアプローチや地域団体との連携強化などに取り組む。 		

取組名③		2か所目の認知症カフェを開催する	
計 画	目標		
	現在開催している原町田あんしん相談室まで足を運ばない方のための集いの場としてカフェを開催する		
	2023年度の取組		
	<ul style="list-style-type: none"> ・駅より北のエリアで活用できる会場の情報収集を行う。 ・現在開催している認知症カフェの参加者や認知症サポーター、家族会メンバーからカフェに対する意向を聴取する。 ・出張型開催で参加者やサポーターとの運営企画を行い、段階的に定期開催・定着を目指す。 ・参加者の参加動機等の把握に努め、ニーズに応じた活動内容を検討する。 ・家族会や家族介護者教室との連動を図り、認知症に悩む家族の支援を行う。 		
	活動指標		
	『オレンジ café ポピー2(仮)』の開催		
	目標値	2回開催	
実績値	2回(予定)		
実 績	2023年度の成果		
	<ul style="list-style-type: none"> ・既存カフェは参加者やサポーターの声を生かした活動を行い、また地域団体との協働により活性化できた ・2023.9.3のRUN 伴の中継地点で臨時開催し、14名の参加を得た。その時に参加された認知症サポーターと打ち合わせを重ね、2024年2月より定期的に開催した。 2023.11月開催のサポーター交流会、月1回開催の家族会参加者や2024.1月開催の家族介護者教室での周知や近隣グループホームとの連携を図った。 		
	2024年度に向けた課題		
	<ul style="list-style-type: none"> ・当事者・家族への認知度を高め、社会資源として活用することが課題 ・ネーミングが決まっていないことが課題、参加者・サポーターで検討を行う 		

3 市のコメント

(良い取り組みだと感じた点)

○データと、訪問による実態調査を合わせて地域の課題を把握し、男性を対象とした家事教室を開催する等、課題解決のための取り組みをすすめることができたこと

(次年度以降力を入れてほしい点)

○新しくできた認知症カフェについて、必要とする方が参加できるよう、引き続き周知を行うこと。

2023年度町田第2高齢者支援センター重点事業計画書兼報告書

以下の項目について、町田市地域包括支援センター運営方針を踏まえて記載してください。

1 担当する地域の現状と課題

担当する地域の現状と課題の中から、特に重要であるものを3点記載してください。

【現状と課題①】

本町田地域は17地区からなる本町田町内会と町内会に所属していない自治会、及び地域で構成されている。宅地開発が特に進んだ30～40年前から住んでいる世代を中心に近年では若い世代が移り住む新興住宅地も増え始めてきたが、高齢化率は概ね横ばいの32%で推移している。

コロナ禍において、既存の「通い・集いの場」の多くが休止・中止を余儀なくされた。地域フレイルの進行、高齢者の孤立が課題といえる。また、オンラインツールの活用が難しい地域住民がいる現状も踏まえて、どのように地域のつながりを醸成するかについて課題と捉えている。(本町田地区全域)

【現状と課題②】

本町田地域では、自分や家族が介護に困った上で、或いは近隣の方から事が起きたため相談することが多く見受けられる。また、地域性として、近隣の協力関係など、地域でのつながりについて必要と感じている方は多いものの、「自分ゴト」としての地域活動への参加率は低い傾向がある。

本町田地域は市内12地区の中でも高齢化率が非常に高く、地域活動におけるマンパワー不足などを背景に認知症施策「Dカフェ」を実施している団体・個人がいない。

「健康」や「認知症」に不安を抱える自分・家族・隣人などが必要とする情報の取得や交流の場がない事が地域課題として挙げられる。(本町田地区全域)

【現状と課題③】

本町田地域では、「死」を連想することに対して、「縁起が悪い」と言う風習や「死=怖い」という文化を背景に、いつか考えなくてはいけないが、まだ元気だからと先延ばしにしてしまう傾向が多くの人にすることが個別相談、個別支援などでしばしば伺える。

また、高齢者支援の現場において、利用者(患者)、代弁者家族、医療や福祉のケア提供者は、必ずしも自らの意思を表明できる機会を与えられているとはいえないという話が医療・福祉の専門職から課題として挙げられてきている。

利用者や代弁者家族は、誰に何をどう伝えるとより良く過ごしていけるのか、医療や福祉のケア提供者は、自分がどの立ち位置でACPに関わるのか、何をつなぐ役割なのかなどについて相互に理解を深めておく必要がある。

(本町田地区全域)

2 課題解決に向けた重点的な取組

「1」の課題を解決するため、重点的に取り組む内容について記載してください。

取組名①		拠点型介護予防活動とオンライン介護予防活動の場づくり	
計 画	目標	介護予防活動について地域住民が主体的に取り組むことができる場をつくる	
	2023年度の取組	① 重点地域を「本町田公社住宅周辺地区」に定める。歩いて通える場所で運動、趣味活動を継続して行えるよう介護予防教室等を開催する (周辺地区:本町田公社住宅イ号棟、ロ号棟、本町田宿自治会、日向台自治会) ② オンライン相談拠点事業の展開 ・本町田地区内3拠点を実施日毎に変えながら巡回し開所する ・自主グループ活動に向かう「出張相談サロン」をニーズに合わせて開催する ・専門講師と町ネットサポーターによる相談サロン方式で運営する ・住民同士のオンライン活動や新しいつながりづくりを支援する	
	活動指標	①介護予防教室の開催数 及び 参加者数 ②相談拠点の開催数 及び 相談者数	
	目標値	① 5回・延べ50名	②30回・延べ300名
	実績値	① 7回・延べ45名	②38回・延べ360名
	2023年度の成果	① 重点地域で介護予防月間地域型イベント、地域介護予防教室「歌活」、介護予防普及啓発講座(口腔)を開催。歩いて通える場所で健康促進・趣味活動が継続して行える声楽活動を主とする自主グループの立ち上げができた。1講座あたりの参加者数が想定を下回ったため、延べ参加者数の目標は未達となった。 ② 地域ニーズに合わせて増回し、目標を上回り実施できた。サロン方式にすることで町ネットサポーターにとっても活動場所として運営できた。	
実 績	2024年度に向けた課題	未だに地域活動は少なく縮小傾向にあるため、地域フレイルの進行や高齢者の孤立が課題として挙げられる。また、オンラインツールの活用が難しい地域住民がいる現状も踏まえて、どのように地域のつながりを醸成するかについては継続した課題としてある。	

取組名②		センター主催のD ブックス・D カフェの開催	
計 画	目標		
	「健康」や「認知症」に不安を抱える自分・家族・近隣住民などが、必要とする情報の収集や交換が気軽にできる場をつくる		
	2023年度の取組		
	本町田あんしん相談室を拠点としたD ブックスの展開 「健康」や「認知症」を主テーマにしつつ、広く多世代に対するメッセージ性も持ちながら、住民同士のつながりづくりを踏まえて取り組む		
	① 地域活動「きんじよの本棚」への参加と認知症関連書籍の充実 ② 地域住民との協働の元、D カフェを開催する ③ 認知症サポーター養成講座の開催と活動意向者の発掘 ・活動意向者同士がつながることができ、認知症普及啓発活動の情報が容易に取得できるネットワークづくりを進める		
	活動指標		
		① 認知症関連の書籍数。センター又は地域の刊行物への記事掲載 ②③ 開催回数及び参加者数	
目標値		① 15冊・2回・1000部 ②8回 ③3回・延べ30名	
実績値		① 15冊・1回・1000部 ②10回 ③8回・延べ110名	
実 績	2023年度の成果		
	① 認知症関連書籍を新たに15冊導入し藤の台団地自治会広報誌などでも広く周知することで活動の認知と認知症についての学びのきっかけ作りが図れた。年2回の記事掲載を目標としたが、1回の記事掲載で発行部数の目標値を達成し、それなりの周知が図れたと判断したため2回目の掲示は行わなかった。		
	② 本町田公社住宅集会所にて定期的にD カフェを開催。認知症当事者の定期的な通いの場の一つとして提供できた		
	③ 地域ニーズもあり、計画目標を超えて講座を開催。サポーターを養成できた。		
2024年度に向けた課題			
認知症になっても参加し続けられる場所、参加し始められる場所が少ないことが課題。また、認知症サポーター養成講座の受講者は市内に数多くいるが、サポーター自身が認知症サポーター活動を捉えきれていなかったり、活動場所が少なかったり、サポーター活動の中には当事者やその家族が希望する形と合致していない点に課題がある。「健康」や「認知症」に不安を抱える自分・家族・隣人などが必要とする情報の取得や交流の場が少ない事は継続して地域課題として挙げられる。			

取組名③	ACP を地域住民と考えるセンター単独地域ケア推進会議の開催	
計 画	目標	
	地域住民に向けた ACP(アドバンス・ケア・プランニング)の普及啓発、地域住民と専門職間のつながりづくりを行う。	
	2023年度の取組	
	<p>ACP を地域住民と考えるセンター単独地域ケア推進会議を開催する</p> <p><開催方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ・在宅診療を現職で行う医師による講義の時間を設ける ・本町田、藤の台地域の住民を主たる対象者とし、センターだけでなく地縁団体等の協力も得ながら参加者を募ることとする。 ・専門職については担当地域の自治会・町内会や地区協議会活動に参画のある方を中心に参加者を募ることとする。(医療機関、薬局、福祉事業所など) 	
	活動指標	
	① 開催回数	②参加者数
② 開催報告を兼ねた ACP の普及啓発チラシの作成、配布		
目標値	① 1回 ②40名 ③500部	
実績値	① 1回 ②29名 ③200部	
実 績	2023年度の成果	
	<p>① 6月下旬に訪問医、MSW、救命救急士、CM、藤の台助けあいの会、見守り支援ネットワーク、そして住民の方と「ACP と救命救急」をテーマに会議を開催した。</p> <p>② 開催後、在宅療養への関心が高まり、自治会・UR 管理組合と住み慣れた住まいで暮らし続けるための環境づくりについての話し合いがスタートした。</p>	
績	2024年度に向けた課題	
	<p>「ACP」の認知度が低いことで自分が希望する在宅療養・終末期の過ごし方が描けない・相談できない人が多いことが課題。尚、今回地域ケア推進会議に参加した市民の方12名のうち「ACP」を聞いたことがある方は0名だった。この12名は参加意欲があり延命不要カードを作られていた方もいたにもかかわらず、認知されていない現状があった。住民の方々の新型コロナウイルス感染症による会議参加への抵抗感と、体調不良で急遽不参加となった方が複数いたことにより、参加者数の目標は未達となった。</p>	

3 市のコメント

(良い取り組みだと感じた点)

○D ブックス導入や D カフェの開催等、認知症の方やその家族を支える取り組みを新たに実施できたこと。

○支援センター、あんしん相談室の所在地と重点地域がバランスよく配置され、取り組みをすすめられているところ。

(次年度以降力を入れてほしい点)

○担当地域の要支援者数の増加が顕著であることから、閉じこもりやフレイル状態にある高齢者の増加に対して、改善のための取り組みを進めていくこと。

2023年度町田第3高齢者支援センター重点事業計画書兼報告書

以下の項目について、町田市地域包括支援センター運営方針を踏まえて記載してください。

1 担当する地域の現状と課題

担当する地域の現状と課題の中から、特に重要であるものを3点記載してください。

【現状と課題①】

玉川学園・東玉川学園地区において、独居高齢者や高齢者世帯の増加と共に、これまで地域活動を行って来ていた住民も高齢化し、町内会加入世帯率は50%を切り、地域活動をする人材が不足している状態である。地域づくりをするための若い世代を取り込めていないことが課題となっている。加えて、玉川学園地区は住宅地であるが、高齢化に伴い空き家傾向にあり、空き地対策が課題となっている。

また、南大谷地区は比較的若い世帯が増えている地区であるが、一区画が売りに出されると、その区画に十数件の戸建てが建ち、新しい住民が一挙に増える状況にある。新たな転居者と従来から住んでいる住民の交流が希薄なことが課題となっている。

【現状と課題②】

現在、町トレは18ヶ所、約498名が参加している。「町トレ支え合い連絡会」にて「会場が確保できずグループを立ち上げることができない」との意見が上がっている。

特に玉川学園7丁目・8丁目、東玉川学園地区においては、こすもす会館1ヶ所に活動会場が限定されており、坂の途中に立地していることから、参加を断念する高齢者がいるのが現状である。徒歩圏内にフレイル予防や交流のための集いの場が少ないことが課題となっている。

【現状と課題③】

認知症高齢者を支える家族が、共依存や引きこもり、精神疾患をもっているなどの状況にあるケースが増えている。介護保険制度を利用している場合でも、日々の介護の中で暴言・暴力、不適切介護、ネグレクト等の虐待事案に発展する危険性を常にはらんだ状況にある。また家族自身が介護保険の利用を拒否するケースもあり、支援センターが定期的に連絡を入れて状況確認等を行っている。支援センターでは認知症サポーター養成講座の開催に加えて、認知症のさらなる理解を深めるために啓発講座を年1回開催しているが、認知症サポーターの活用までには至っていないのが現状である。地域住民を含めた関係機関との情報共有が不十分なために、認知症の人を早期発見及び支援する機会を損失していることが課題となっている。

2 課題解決に向けた重点的な取組

「1」の課題を解決するため、重点的に取り組む内容について記載してください。

取組名①	若い世代が参加できる地域ケア会議等を増やし、繋がりを強化する。	
計 画	目標	若い世代と繋がりをもち、見守りや地域活動の担い手として活躍できる人材を増やす
	2023年度の取組	<p>・南大谷地区にて「防災」を切り口とした多世代の繋がりを図ることを目的に、今年度も子供向けの防災体験会(地域ケア会議)を開催する。子どもと高齢者の更なる交流ができるようイベントを開催する。 ・玉川学園地区にて「第3回妄想の花を咲かせましょう。(仮題)地域ケア会議」を開催し、これまでの成果の確認や新たな企画について意見交換を行い、地域活動の新たな担い手との繋がりを強化する。 ・玉川学園町内会・町5小 PTA・児童館と協力し、アクティブシニアの参加のきっかけづくりとあんしんキーホルダーの周知を兼ねて、小学生通学路沿いの高齢者宅に個別訪問する。 ・前年度町5小にて「認知症の基礎知識の普及と他者理解」の公開授業は、今年度学校長よりオファーを受け、6月10日道徳公開授業(差別・偏見をなくす)の時間に継続開催する。</p>
	活動指標	<p>・南大谷地区・玉川学園地区地域ケア会議開催のための打合せ会議数と地域ケア会議の会議数。 ・高齢者戸別訪問によるあんしんキーホルダー呼びかけ件数。</p>
	目標値	<p>・打合せ会議数 5回 地域ケア推進会議2回/年 ・呼びかけ件数 30件/年</p>
	実績値	<p>・打合せ会議 7回 地域ケア推進会議 2回/年 ・呼びかけ件数 141件/年</p>
	2023年度の成果	<p>・南大谷地区にて10月15日プレ防災体験として防災食作り、11月11日はスタッフ・ボランティア・東京消防庁・消防団・駐在 50名参加者 70名、総勢 120名で防災体験会を開催した。 ・玉川学園地区では7月9日地域ケア推進会議を開催し、【妄想大会】3年目の成果の確認と今後の発展についてグループワークを行った。 ・高齢者宅の個別訪問の実績は4月50世帯、9月91世帯個別訪問にて呼びかけた。</p>
実 績	2023年度の成果	<p>・6月10日町5小学校5年生に開催した。今年は受講の証としてのオレンジマスコット(ろば隊長)を作成してくれた高齢者が直接5年生の代表に手渡して顔のみえる関係を築ききっかけとした。当日、鶴川サナトリウム病院や他の小学校のPTA役員、認知症カフェを開催希望の地域住民等が公開授業に傍聴参加してくれたので、拡散周知を図ることができた。来年の開催も内定している。</p>

	2024年度に向けた課題
	<p>・南大谷の防災について、実行委員会形式でそれぞれの団体が地域住民への活動周知を目的としているが、団地自治会からの興味・参加が少ないことが課題となっている。次年度継続開催に向けて、団地住民の興味を引くような体験会の見せ方を工夫する必要があることが課題である。</p> <p>・今年授業を受けた5年生から、来年授業を受ける5年生のために自分達でマスコットを作ってみたいという意見が出た。地域の高齢者の役割創出を目的にマスコットづくりを依頼していたが、次年度に向けて工夫できないか検討していきたい。</p>

	取組名②	空きスペース等を活用し、新たな集いの場と参加者の開拓を行う。
計 画	目標	高齢者にとって外に出かける事に意義があることを周知し、歩いて通える集いの場を増やすことで、フレイルを予防し、近隣との繋がりを保つことができる。
	2023年度の取組	<p>・3年前より地区社協主催「街かど・なんでも相談室」に奇数月第4火曜開催時にセンター職員が協力している。2023年度から開催場所がコミュニティセンターとなるのを機に、空きスペースとなっているウッドデッキを利用し、コラボ企画として「ご近所さん会❀お庭カフェ」を行い集いの場を実施する。</p> <p>・南大谷地区児童館との高齢者グループでボッチャ大会を開催し、多世代交流に繋げる。今年度はトライアル開催とし、次年度以降の継続を目指す。</p>
	活動指標	<p>・ご近所さん会❀お庭カフェの開催数。</p> <p>・ボッチャ大会 開催数。</p>
	目標値	<p>・ご近所さん会❀お庭カフェ開催 1回/年</p> <p>・ボッチャ大会開催 1回/年</p>
	実績値	<p>・ご近所さん会❀お庭カフェ開催 2回/年</p> <p>・ボッチャ大会開催 1回/年(8チームトーナメント制)</p>
	2023年度の成果	<p>・コミュニティセンター館長の理解を得て、ウッドデッキの空きスペースを利用し、春と秋にお庭カフェを開催した。センターが主催したのは2回だが、この活動が地域住民にも浸透し、地域住民主催のお庭カフェ開催時にセンターに連絡が入り、職員が参加している。</p> <p>・コロナが5類に移行し、地域住民の活動が活発になり、新たな町トレグループが2カ所立ち上がり20グループ総勢540名の参加者となった。</p> <p>・1月20日南大谷の4つのボッチャグループと児童館の小学生4グループがトーナメントで戦うボッチャ大会を開催した。開催にあたり児童館のホールも活用し、高齢者と児童が交流を図った。</p>
実 績		

	2024年度に向けた課題	
	<ul style="list-style-type: none"> ・地区社協主催の「街かど・なんでも相談室」の在り方について、他協力事業所からも見直しの声があがっている。次年度のご近所さん会  お庭カフェの継続方法について検討する必要があることが課題である。 ・今年度は、まずはトライアルということで高齢者 4 グループと児童 4 グループでトーナメント形式で開催した。今後継続開催を目指して工夫していくことと、高齢者と児童の親交が深まることで高齢者と児童の混合チームを作っていけるような仕掛けづくりが課題である。 	
	取組名③	認知症の人を早期発見及び支援するため、地域での支援者を養成する。
計 画	目標	
	地域の社会資源とのネットワークを構築して、認知症の人を適切な支援に繋げる。	
	2023年度の取組	
	<ul style="list-style-type: none"> ・玉川学園・東玉川学園地区にてコロナで休止中の見守りネットワークの再開・継続を支援する。 ・認知症サポーターの活動の場づくりとして、9月世界アルツハイマー月間に認知症サポーターと共同企画にて南大谷で普及啓発のイベントを開催する。 	
	活動指標	
	<ul style="list-style-type: none"> ・あんしん連絡員見守りブロック会議開催数。 ・認知症普及啓発イベント開催数。 	
	目標値	<ul style="list-style-type: none"> ・見守りブロック会議数 1回/各ブロック 計4回 ・認知症普及啓発イベント 1回/年
	実績値	<ul style="list-style-type: none"> ・見守りブロック会議数 4回程度/各ブロック 計46回 ・認知症普及啓発イベント 9回/年(アルツハイマー月間中のイベントの他、あんしんカフェの開催を含む)
実 績	2023年度の成果	
	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ感染が 5 類に引き下がり、地域での活動がやっと再開できる状況になった今年度は、人的社会資源としてのであんしん連絡員の活動や、会議の活性化を図ることが出来た。具体的には見守りネットワークの実施回数は延べ 46 回に及び、久しぶりの開催となった地区や新たなあんしん連絡員の参加を得て開催した地区等では、新たな自主グループが立ち上がり連絡員のモチベーションアップにつながり、活動継続の一助となった。 ・地区の民生委員とあんしん連絡員の顔合わせが出来たことで横 	

	<p>の繋がりの拡大が期待できる。 ・認知症サポーターステップアップ講座を受講した南大谷の地域住民から「何か活動したい。」との声が上がった。 センター職員も交えて検討した結果、認知症の方だけに限らず、「誰でも参加できる居場所のような場」を作りたいというコンセプトで、7月から【あんしんカフェ】を毎月第1日曜日午後で開催している。 9月はオレンジガーデニングプロジェクトに参加し、オレンジのキバナコスモスを植えて普及啓発を図った。 アルツハイマー月間イベント『RUN伴』開催に合わせて、休憩所として【あんしんカフェ】を開催。現在は、認知症の夫を伴ったご夫婦や精神疾患のある方、独居高齢者など毎月15名ほどの参加を得ている。 ・認知症サポーターからの、ぜひ地域の人たちに広めたいと企画依頼を受け、認知症普及啓発講座やサポーター養成講座を開催した。</p>
	<p>2024年度に向けた課題</p>
	<p>・認知症サポーターやあんしん連絡員を人的社会資源と位置付け、支援センターとして、ともに歩んでいく姿勢を示していく必要がある。 次年度に向けて職員間で情報共有し、既存の団体も含めて、身の回りにいる認知症の方に目が向き、声掛けなどが実践できるように繰り返し認知症について啓発を行う必要がある。 センターが作成する各事業の年間活動計画の内容をいかに認知症サポーターやあんしん連絡員と共有していくかが課題である。</p>

3 市のコメント

<p>(良い取り組みだと感じた点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○防災体験やボッチャ交流会等多世代の交流を図るためのイベントを実施し、多世代のつながりづくりに取り組んだこと。 ○認知症サポーターやあんしん連絡員の活動支援を行い、地域で高齢者を支援するネットワークづくりをすすめることができたこと。 <p>(次年度以降力を入れてほしい点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○多世代を対象としたイベントや講座きっかけに、若い世代も地域づくりに参加していけるようすすめること。
--

2023年度南第1高齢者支援センター重点事業計画書兼報告書

以下の項目について、町田市地域包括支援センター運営方針を踏まえて記載してください。

1 担当する地域の現状と課題

担当する地域の現状と課題の中から、特に重要であるものを3点記載してください。

【現状と課題①】 “認知症とともに生きるまちづくり”の推進 と家族支援

認知症になっても住み慣れた地域で生活を継続していくには、医療や介護など専門分野との連携の他、地域を中心とした支援体制を整えていくことが重要である。そのため、スーパーや金融機関など生活に密着した窓口や、介護や見守りの担い手となる若い世代に対する認知症の普及啓発が課題となっている。また、独居や高齢夫婦世帯が増えており、認知症の早期発見が難しくなることや、家庭内の問題が複雑化し、介護者の孤立が懸念される。介護者のニーズに合わせた支援が必要である。また、MCIの状態になってもその人らしく暮らしていけるよう、認知症当事者の声を反映させた地域の居場所や、活躍の場をつくっていく必要がある。

【現状と課題②】 コロナ禍を経たフレイル予防の促進

今年度の重点地域であるつくし野ではこれまで、出張相談会や教室などでアンケートを実施。その結果や JAGES などの統計からも、運動や認知症予防などセルフケアに関する興味関心が高く、積極的に取り組む地域であることが分かった。一方で、高齢化率が高いことや、閑静な住宅街であることから活動場所が限定されることや、駅までに坂があるため、フレイルによる閉じこもりが考えられる。また、残歯数は多いが、口腔機能は低下傾向とのデータもあり、オーラルフレイルの普及啓発を行う必要がある。スマホ保有率も高いため、オンラインなど多様な手法を使った介護予防事業と、閉じこもりがちな方へのフレイル予防に関する情報発信や交流の場づくりを行い、セルフケアを充実させるよう働きかける必要がある。

【現状と課題③】 住民同士のネットワークを強化し“助け上手・助けられ上手”を増やす

近年、ヤングケアラーやダブルケア等の問題もあるため、幅広い年代に高齢者支援センターを身近な相談窓口として認知してもらう必要があるが、イベントでのアンケートの結果、特に子育て世代に対する周知が不十分であることが分かった。世代問わず相談しやすい体制づくりと、地域での見守る目や担い手を増やしていくため、多世代の見守りネットワークの構築が必要である。

また、独居高齢者が増え、家族がいても遠方であったり、疎遠となっていたりと孤独死も増加傾向にある。住民に対しもしものときの備えとして、緊急時の対策と、日頃の住民同士の横のつながりを作っていく必要性を働きかけていく必要がある。

2 課題解決に向けた重点的な取組

「1」の課題を解決するため、重点的に取り組む内容について記載してください。

取組名①		“認知症とともに生きるまちづくり”の推進と家族支援		
計 画	目標	幅広い年代に認知症を理解してもらい、認知症になってもその人らしく活躍し続けられるまちづくりを行うとともに、介護者を孤立させない繋がりをつくる。		
	2023年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> 小学生やその親、高齢者までの多世代に認知症の普及啓発を行い、地域の担い手の発掘や、認知症になっても活躍し続けられる体制を作る。 「オレンジみなみ風」の活動を通し、オンラインも活用しながら、認知症当事者や認知症サポーター、関心のある地域住民と、共に過ごせる居場所、活躍の場づくりを行う。また、その内容を広報誌等で発信し、認知症当事者の声を地域に届ける。 介護者にアンケートを実施してニーズ把握を行い、関心の高いテーマの情報発信や、当事者も一緒に参加可能とするなど家族介護者交流会の開催方法を工夫する。 認知症疾患医療センターと協働し、認知症予防に関する情報発信を行う。 		
	活動指標	①「知ってあんしん認知症」の配布 ②介護者からのアンケート回収数 ③当事者も参加できる居場所づくりイベント開催数		
	目標値	①	130部	②50部 ③6回
	実績値	①	135部	②45部 ③18回
実 績	2023年度の成果	<ul style="list-style-type: none"> 小川体操倶楽部、西小川親和会と今まで実施できていなかった団体へ認サポが実施できた。小学校でも4年ぶりに対面での認サポを行い、認知症について学ぶ機会を持つことができ、子どもから高齢者、子育て世代と幅広い世代への普及啓発ができた。 当事者も参加するチームオレンジである、オレンジみなみ風の活動により、認知症当事者も支援者も地域の方も垣根を超えた、病気を特別にしない仕組みづくりができた。オレンジみなみ風に限らず、当事者も活動する中で共に過ごせる場所を複数作ることができた。 家族介護者交流会では、介護者へのアンケートをもとに、2022年度はオンラインで実施、2023年度は毎回テーマを決めて開催する等方法を工夫した。 認知症疾患医療センターと協働で認知症予防に関する記事を作成し、センターの広報誌に定期的に掲載して周知した。 		
	2024年度に向けた課題	新しい団体へ認知症の普及啓発ができたが、自治会役員が交代した事で、再周知が必要となっている。JAGESでも、つくし野、南つくし野、南町田のエリアは認知症リスクの高さが見受けられ、来年度も認知症の普及啓発が必要と考える。また、今年度認知症の権利擁護に関わるような相談件数が増えており、当事者、それを支える家族の支援の強化が必要。家族介護者の支援に関しては今年度実施内容を工夫したが、参加者数が伸び悩んでおり、ニーズを踏まえた参加しやすい環境づくりが課題となる。		

取組名②		コロナ禍を経たフレイル予防の促進			
計 画	目標	重点地域であるつくし野を中心に、フレイル予防の普及啓発を行い、社会参加の場の創出とセルフケアの充実をはかる。			
	2023年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・つくし野支え合い連絡会を通じ地域のニーズに即したフレイルの普及啓発を行う。 ・集いの場の少ないつくし野からも通える場として、小川会館で健康体操を開催。 ・歯科医による講演でオーラルフレイルの意識を高め、生活習慣の見直しのきっかけ作りを行う。 ・既存グループへの訪問や実態把握などで、「外トレ」やフレイル予防に関する資料を配布、発信しセルフケアの充実をはかる。 ・閉じこもりがちの方には、ICTも活用し情報交換や交流の場づくりを促進する。 ・多世代が参加するイベントでフレイル予防について周知し、若い方から関心を持ち取り組んでいただく。 			
	活動指標	① フレイル予防・介護予防の教室参加のべ人数 ② フレイルに関する情報誌の配布数			
	目標値	①	140名	②	200枚
	実績値	①	193名	②	193枚
	2023年度の成果	<p>高齢化率の高いつくし野の支え合い連絡会を通じて、閉じこもり高齢者の把握と高齢者のフレイル予防についてニーズを把握した。つくし野で実施した月間イベントでは、MCIについて鶴川サナトリウム病院の理学療法士、看護師等に講師を依頼し、チェアヨガの実践を行った。地域住民と一緒に認知症予防について考える機会となった。また、嚥下等の口腔機能がエリアの中で一番低い状況であることから、口腔についても歯科医師会の医師に講話を頂き、口の健康について理解を深め、定期的な歯科受診の必要性について広く周知することができた。</p> <p>・既存グループへの支援も要望があり実施。2022年に鶴間にできた町トレグループへの働きかけにより、介護予防、セルフケアの充実が進み、さらに、支援センターが直接地域に出向いた時に心配な高齢者の相談も受けるようになった。他地域でもEトレ、ロトレを普及し、グループ内で介護予防を自主的に行う仕組みができた。</p>			
実 績	2024年度に向けた課題	<p>つくし野の支え合い連絡会にて把握した閉じこもり高齢者については、外の活動に興味を持っていただけるよう、引き続き出張相談会や講座、フレイル予防のための活動を促していく。JAGESにて、つくし野、南つくし野エリアは嚥下機能が悪いなど、フレイルの数が多いことがわかっており、引き続き閉じこもり高齢者に対するフレイル、認知症予防の取り組みを継続させる必要がある。自分たちで介護予防ができるようなセルフケアの仕組みづくりの働きかけを行う。</p>			

取組名③		住民同士のネットワークを強化し“助け上手・助けられ上手”を増やす	
計 画	目標		
	世代を問わず相談しやすい体制づくり。 住民同士の横のつながりを作り、見守る目を強化する。		
	2023年度の取組		
	<ul style="list-style-type: none"> ・地域イベントの参加や出張相談会の開催で、幅広い年代の地域住民と平常時からの関係づくりを行い、気軽に相談しやすい体制づくりを行う。 ・つくし野支え合い連絡会を通じて、住民同士や事業所の横のつながりを作る。 ・地区社協立ち上げ後、多職種相談会などの企画・参加を通じて多分野と協働し、個々のケース解決に取り組むとともに、地域課題の抽出を行う。 ・地域ケア会議や勉強会を通じて、アルコール依存症や 8050 など多問題家族への対応を CM とともに検討し、相談しやすい体制を作る。 ・医療未受診者リストを活用し、安否確認含めた実態把握を行うとともに、健康診断の推奨や、あんしんキーホルダーの登録を促し連絡先の把握を行う。 		
	活動指標		
	① 多世代が参加するイベントや場所での出張相談会の開催数 ② 勉強会・地域ケア会議の開催数 ③地域住民や事業所、店舗からの相談数		
	目標値	① 9回 ②4回 ③50件	
	実績値	① 15回②5回 ③23件	
実 績	2023年度の成果		
	<ul style="list-style-type: none"> ・南あんしんプロジェクトでの福祉フェア、つくし野杉山神社のお祭りにて出展、出張相談、南つくし野へのスマホ講座等によって、多問題ケースの相談が下半期に増加。今まで相談の上がりにくかった南つくし野とも関係性を深めることができ、地域内のネットワークも強化できた。 ・つくし野では支え合い連絡会から地域ケア会議に発展して課題解決に向けた取り組みを行い、横のつながりができた。その中で ICT、交流、フレイル予防の課題が上がり、魅力ある街のPRツールとしてフレイル予防に繋がるためのマップ作成を分会で進めていくことが決まった。 ・アルコール依存症をテーマにした地域ケア会議内で、アルコール依存への共通認識ができ、課題解決に向けて引き続き会議、勉強会を重ね、支援者が孤立しない仕組みづくりを行うこととなった。 		
	2024年度に向けた課題		
	南地区社協と引き続き連携し、複合的な問題について検討していく必要がある。また、ベテランの民生委員退職による不在地域からの相談数が減少。民生委員の会長だけでは支援体制が不足している状況。既存の見守り支援ネットワークではメンバーの新旧交代があり、相談が上がりにくくなっている実情がある。地域で互いに見守り合える支援ネットワークをどのように構築するか、支え合い連絡会を通じて横のつながりを再構築し、来年度も関係性の繋ぎ直しが必要。		

3 市のコメント

(良い取り組みだと感じた点)

○オレンジみなみ風の活動を中心に、認知症当事者が活動できる居場所を地域の中に多く作ることができたこと。

(次年度以降力を入れてほしい点)

○つくし野の支え合い連絡会で把握された、閉じこもりの高齢者が多いという課題について、引き続き解決に向け、マップ作成等を地域住民とともに取り組んでいくこと。

2023年度南第2高齢者支援センター重点事業計画書兼報告書

以下の項目について、町田市地域包括支援センター運営方針を踏まえて記載してください。

1 担当する地域の現状と課題

担当する地域の現状と課題の中から、特に重要であるものを3点記載してください。

【現状と課題①】

南成瀬地域は、成瀬駅に近く、年齢層が生産年齢人口帯の若い住民の転入が多く、昔からの住民と転入してきた住民のつながりが希薄で、地域住民間においても交流が少ない。2022年度にアプローチした南成瀬7・8丁目は、地域交流の場として「いこいの場」が立ち上がったが住民間の交流が活発になったとは言えない段階にある。周知及び参加機会のサポートが必要である。

また、成瀬駅前ハイツでは、センターとの関係性の構築が進まず、住民から相談が来る段階においては、すでに状況が悪化していることも多い。近年においては、民生委員や管理事務所からの相談が増えている。2022年度の圏域フレイルチェック会において、フレイル予防や健康増進等に興味関心のある住民が一定数存在することが把握できた。

【現状と課題②】

第5都営見守りネットワークでは、構成する老人会が補助金をもらわない団体に移行し、会長も入れ替わりがあり、見守りネットワークの今後の運営について相談が届いている。小田急金森泉自治会の見守りネットワークにおいては、メンバーが固定化され、年齢を重ねてきている状況があり、後継者についての懸念がある。その他地域では見守りネットワークは名乗らないものの、町トレの立ち上げが年々増え、関係者間での見守りは充実している傾向があり、互助の形の変化していることが伺える。参加できない層の見守りを担っている民生委員も代替わりで、欠員地域が増加。市営・都営住宅のLSAも入れ替わり、地域住民へのアプローチを模索している。

【現状と課題③】

36の自治会、15の老人会、19の町トレをはじめ、センターとの関わりある団体は100を超えるが、活動休止、解散となった団体も少なからずある。コロナ禍の影響はあるものの、以前からの課題でもあり、会員の高年齢化と新規加入者の減少が根本要因であると分析している。自治会・老人会の加入者数は減少の一途。各会では、取り組みを変える・増やすなど打開策を模索するも良案は見当たっていない。

2022年度、高ヶ坂・成瀬地区協議会 事業推進会議（12月）にて、南成瀬中学校他学校の人材不足及び課題を把握。高齢者の地域貢献の場として活用することができることを地域ケア会議にて確認した。

2 課題解決に向けた重点的な取組

「1」の課題を解決するため、重点的に取り組む内容について記載してください。

取組名①	【引き出す】住民主体の地域活性 力向上 +リアルニーズ抽出	
計 画	目標	
	<p>南成瀬 7・8 丁目:地域住民が課題を見つけ、取り組みを考え、実行し、振り返り、活動を見直し、改善していく力を引き出す。結果として、交流の場に、新しい住民が継続参加している。</p> <p>成瀬駅前ハイツ:センターの取り組みを継続的に実施。顔の見える関係づくり+定期連絡を取り合える関係づくりへ展開し、住民の 声に基づいた リアルニーズを引き出す。</p>	
	2023年度の取組	
	<p>南成瀬 7・8 丁目のいこいの場を起点に、住民主体で地域活性を進めていく。センターによる支援（見守り普及啓発講座、認知症サポーター養成講座等 に加えインフォーマル資源として、ライフキネティック運動(脳トレを組み合あわせた新エクササイズ)、地域の新聞組合の主催する認知症予防交流会等の活用も視野に広報協力し参加促進サポートを行う。</p> <p>成瀬駅前ハイツでは、あんしんキーホルダー登録会や介護予防普及啓発講座等を活用し、関係構築のアプローチを開始する。コロナ禍が終わり、再開が検討されている成瀬駅前祭り、成瀬が丘商店街祭りなどに参加し、周知活動を行って関係構築に活かしていく。中期的には、町トレ等集まりの場をハイツ内において立ち上げる。</p>	
	<p>活動指標</p> <p>① 見守り普及啓発講座・認知症サポーター養成講座の開催回数 ② 地域団体が行う講座等に関する支援(講師紹介・広報等)回数 ③ あんしんキーホルダー登録会の開催回数 ④ 介護予防普及啓発講座の開催回数</p>	
	目標値	① 各 1 回、②3 回、③2 回、④1 回
実績値	① 各 1 回、②3回、③6回、④0 回	
実 績	2023年度の成果	
	<p>① 南成瀬いこいの場では、祭りへの参加依頼や見守り普及啓発講座の開催依頼を頂くなど、地域住民の声を起点とした取り組みをサポート。世代間交流機会も増え軌道に乗ったといえる。</p> <p>駅前ハイツでは、認知症サポーター養成講座を実施。これまでも各種チラシなどを届けてきたが反応が薄かったことから、今回は集合ポストではなく、ドアポストへのチラシ投函に変更。多数の申し込みを頂き、同ハイツ内集会室で実施。交通の便がよい駅前もあつてか他地域からの参加者も一定数おり盛況であった。</p> <p>② 町トレや地域団体、自治会町内会等に対して、センターから紹介できる地域の講</p>	

	<p>師情報を提供。</p> <p>③ あんしんキーホルダー登録会を、成瀬駅前祭り、西小川親和会、金森 1 丁目ア パートハッピークラブ、南地区社協相談会などにて開催。</p> <p>④ 南成瀬地域からの要請を引き出すには至らず。</p>
	2024年度に向けた課題
	<p>認知症サポーター養成講座の実施により、成瀬駅前ハイツ住民への関わりを持つこ とはできたが、地域住民主体の定期的な集まりを興すには至らず。養成講座での気 づきとして、集まった参加者同士の面識はそれぞれになく、集合する機会を得ても集 まりにくいハードルがある。そのため、今後も繰り返しセンター主催のイベント等を実 施、ご参加頂き、住民同士の顔の見える関係強化を進めていく必要がある。</p>

取組名②		【つなげる】選べる地域資源メニュー＋セット展開
計 画	目標	<p>団体の会長やメンバーの入れ替わりがあっても、地域とのつながりを引き継ぎ、会の 維持・発展の一助となるよう、センターの実施する各講座等が選べるメニューを作成 し交付する。</p>
	2023年度の取組	<p>自治会・老人会などの会長やメンバーの入れ替わりと会員登録者数の減少が進む 中、センターとの関係性や地域資源のつながりが切れてしまわないよう、地域資源リ スト情報に介護予防や認知症予防の講師等情報や定期イベント情報等を追加した 「地域メニュー（仮称）」を作成し、地域団体に交付する。メニューの選択の傾向から、 ニーズにあった内容に更新をしていく。</p> <p>また LSA が定期的な地域交流機会の場づくりを検討しているため、見守り普 及啓発講座＋認知症サポーター養成講座＋介護予防普及啓発講座などを年間 計画した「あんしん講座パック（仮称）」を新たに整備し、地域の場づくりに役 立てて頂く。</p>
	活動指標	<p>① 地域メニュー の作成・更新</p> <p>② あんしん講座パックの仕組化・見直し</p> <p>③ 地域メニュー の団体等配布数</p> <p>④ あんしん講座パックの実施回数</p>
	目標値	① 年 2 回、②年 2 回、③50 か所、④2 回
	実績値	① 年2回、②年 2 回（見込み）、③62 か所、④8 回
	2023年度の成果	<p>① 反響を見積もるために、まずは支援センターの実施する講座や相談会などのライ ンナップでメニューを作成した。</p>
実 績		

	<p>② 見直しは1月実施。講座名だけでは内容がわかりにくいとの声あり。説明を付す。</p> <p>③ 自治会町内会、老人会、自主グループ(町トレ等)、LSA等に配布。</p> <p>④ あんしん講座パックや地域メニューを参照し、自主グループ団体「だんごクラブ」「ひまわり」、「金森1丁目アパートLSA」、「町トレスマイル」「東光寺いこいのひろば」などより、ロトレ・Eトレ・認知症サポーター養成講座の実施依頼あり。</p> <p>あんしん講座パック:支援センターの実施する講座等のまとめ</p> <p>地域メニュー:地域資源リスト情報+講師人材+定期イベント情報</p>
	2024年度に向けた課題
	<p>地域団体の依頼が目標を超え、取り組みは一定の効果ありと判断。まだ依頼のない団体への周知を継続していく。</p> <p>また、メニューの内容の見直しを定期的実施。過去実績を数値として掲載するなど、印象に残るよう、インパクトあるデザインと地域を挙げて取り組んでいることがわかる内容に改良していく。</p>

	取組名③	【相互支援】介護予防・認知症予防の場づくり×地域課題解決
計 画	目標	<p>地域活動団体を窓口とした地域課題解決のためのネットワークを構築し、地域貢献の活躍機会を生み出す。</p> <p>「高齢者＝支えられる側」のイメージを払しょくするきっかけをつくる。</p>
	2023年度の取組	<p>地域ケア会議等を通して、地域団体と機関と地域高齢者のネットワークを構築し、高齢者の介護予防を推進する機会の提供を行う。</p> <p>介護予防サポーターのように、いきいきと活躍される方がいる傍ら、多くの高齢者が自身を「支えられる側」と認識しており、また公的な機関でさえ連絡・相談することに勇気がある人もいることが、総合相談や地域イベントなどを通して多数確認されている。</p> <p>一方で、団体に所属していれば難なく関係構築ができる傾向がある。</p> <p>その性質を生かし、団体等を通して高齢者が地域企業や機関、若者、子供等の役に立てる仕組みをデザインし運用を開始する。中・長期的には地域団体が地域高齢者と共に活動を進めていく地域づくりにつなげていく。</p>
	活動指標	
	①地域ケア会議の開催数	
	②高齢者の地域貢献の場づくりの仕組み構築	
	③町ネットオンライン・共通の連絡ツールの実用団体増加数	
④地域団体から高齢者団体へ依頼が来た回数		
⑤地域課題解決件数		

	目標値	① 年2回②年2回③10団体④10件⑤1件
	実績値	① 年2回（見込み）、②年2回、③2団体（グループ）、20人④0件、⑤2件
実績	2023年度の成果	
	<p>① ・2022年度より取り組んできた南成瀬中学校のステップルームボランティアには4名の申し込みあり。学校側の調整により3名の方がボランティアとして参加。元々週4日の開催を週5日に拡充する目標を立てスタートしたところ、ボランティアの尽力もあり、月～金の稼働に加えて、月・火・木は午後15:00まで稼働できるようになった。また市より1回1,000円のボランティア謝礼が支払われることになった。ボランティアの入れ替わりや、全日15:00までの実施を見越して、人員補充の要請あり。地域高齢者の活躍の場として、周知支援を行う予定。</p> <p>・精神疾患による幻聴による近隣トラブルにおいて、警察、地域住民との連携を図り、当事者の支援体制を構築。トラブル相手を責めるのではないこと、また当事者の支援機関に対する理解を深め協力体制を築くこと、当事者の話を聞き現状に適した対策を立案することが大きな支えになっていることなどを共有した。</p> <p>② ・地域の子育て世代と地域機関の集まり「みなみブリッジ」にて、保育園の布団カバー縫製の人手不足があり、金森西田地域の手芸サークルの有志が支援。</p> <p>・立ち上げの際、アドバイザーとしてサポートした南地区社協主催で、9月より定例実施の相談会「夢サポひろば」が開始。地域高齢者主体の会であり、軌道に乗せるために広報や関係者の紹介などを行う。地域の生活課題を地域住民が解決をしていく機関として、南地区協議会との連携を通して、今後も地域高齢者の活躍の場となっていく見通し。</p> <p>③ 町ネットオンライン講座受講者を対象に、グループラインによる情報交換や相談窓口を開設。相談利用は少ないが、登録者間の情報交換は適宜行われている。しかし、機能やリスクなどの理解が不十分にてセンター公式アカウントを立ち上げるには至らず、受講者以外の団体の取り込みが実施できなかった。</p> <p>④ 団体から地域団体へのダイレクトな相談は確認できなかった。支援センターがハブになっている段階。個人宛の連絡は取っていることから、団体への相談に至るには、まず個人と一定の関係性を構築するステップが必要と考えられる。</p> <p>⑤ 南成瀬中学校のステップルーム人員不足、保育園の布団カバー縫製の担い手不足について、地域高齢者等を紹介し一定の課題解決を達成。</p>	

	2024年度に向けた課題
	<p>南成瀬のステップルームの取り組みは軌道に乗りつつあり試金石となった。金森、金森東、成瀬が丘においてもその地域特有の課題抽出を行い、南地区協議会、自治会町内会連合や老人会、町トレグループ等に情報発信し、ICFの「参加」機会を提供できる体制を構築していく。合わせて地域高齢者がどのようなケースであれば力を発揮する意欲があるのかをリサーチ・公表し、課題を持つ方がどのようなことを頼めるのかを知ることで、相談しやすい仕組みを作っていく。</p> <p>LINEなどでつながっている30～50代の層は、各自の取り組みを広報したり、困りごとを発信したりしているため、地域課題の抽出の場の一つとして、引き続きネットワーク構築に取り組んでいく。</p>

3 市のコメント

<p>(良い取り組みだと感じた点)</p> <p>○中学校や子育て支援機関と連携し、地域の子育て世代を支えることができる高齢者の活動の場を提供する取り組みを実施したこと。</p> <p>(次年度以降力を入れてほしい点)</p> <p>○まだ、つながりを持つことができていない地域に、引き続き、「あんしん講座パック」開催や、通いの場づくり等の働きかけを実施していくこと。</p>
--

2023年度南第3高齢者支援センター重点事業計画書兼報告書

以下の項目について、町田市地域包括支援センター運営方針を踏まえて記載してください。

1 担当する地域の現状と課題

担当する地域の現状と課題の中から、特に重要であるものを3点記載してください。

【現状と課題①】

2年連続で地域ケア会議を開催した大規模オートロックマンションのエステスクエアでは、まだまだ地域住民の当事者意識の醸成が課題で、社会的孤立を防ぎ、深刻な事態に陥る前に支援につなぐため、認知症予防やフレイル予防のためにも継続的な働きかけが必要である。また、個別支援の中では、それまで世帯を支えてきた高齢者が疾患や虚弱のために要介護状態となってから、同居家族の精神疾患やひきこもり、経済的困窮や衛生環境の悪化等の課題が表面化するケースが増えており、障がい者支援センター、保健所、子ども家庭支援センター等の他機関とのスムーズな連携が必要である。併せて、地域の中で課題を抱えた方々を早い段階で支援に繋げていくためのネットワーク作りも課題である。

【現状と課題②】 全域

各エリアで開催してきた支え合い連絡会等で共通する地域課題として、場(場所・機会)の問題が多く挙がっていた。

場所:自治会館がない、コミュニティセンターなどは予約が定期的にとれない、料金が高いため継続して利用できない、坂などの環境もあり徒歩圏に集える場所がない

機会:趣味や生き方が多様化する中で、既存の活動だけでは趣味・生きがいなどのニーズを満たせない、世代間で交わる機会がない

情報:高齢者はオンラインに対する苦手意識が強い傾向にあるため、ニーズにマッチする必要な情報を取得しづらい

上記課題に対して、ハード・ソフト面での新たな場の開拓をおこなうと共に、情報を必要とする人に届ける仕組みづくりが必要となる。

【現状と課題③】 成瀬地区

もともとサークルや趣味活動が少ない地域であり、さらにコロナ禍の影響もまだ残る中で、世代間の交流、つながりが少ないのではないかと考える。南第3エリア全域と同様に、高齢者における「フレイルあり」の割合が高く、85歳以上ではさらに高くなっている。また高齢化により活動継続が困難となる既存の自主グループも出てきている。団地の高齢化率は非常に高い一方で、成瀬3～5丁目のような子育て世代が多い地域も含まれ、地域の中に保育園、幼稚園、小学校、高校、高齢者施設が並んでいる。またスポーツに興味のある方が多い地域でもある。既存の自主グループの活動継続支援をするとともに、多世代で取り組めるスポーツを提案し、住民同士のつながりが生まれる場所作り、戸外でも活動可能な介護予防・フレイル予防に取り組んでいく必要がある。

2 課題解決に向けた重点的な取組

「1」の課題を解決するため、重点的に取り組む内容について記載してください。

取組名①	相談しやすいネットワーク構築のさらなる推進	
計 画	目標	地域住民が必要としている情報の提供、住まいや食など地域住民の暮らしを支える関係者との情報交換、専門職の多機関連携を並行して推進することで、圏域内の誰もが相談しやすいネットワークを構築できる。
	2023年度の取組	①大規模オートロックマンション(エステスクエア)特有の課題の把握と当事者意識の醸成に向けて、自治会と協働して相談先の周知や地域ケア会議を開催しながら、継続的な支援を行う。②多機関で連携して対応した複合的課題を抱えるケースについて振り返り、その事例を用いて勉強会を開催して、各機関の役割の相互理解を深める。③自治会・老人会や JKK、都営住宅担当者、近隣のスーパーや飲食店等の店舗に対して個別訪問を実施して、共に状況や課題の共有を図り、生活課題を抱えるケースに対して早期の介入ができる関係作りを行う。
	活動指標	
		①地域ケア会議の開催回数 ②勉強会開催に向けて働きかけた関係機関の数 ③個別訪問(情報交換)の延べ件数
	目標値	①1回 ②10機関 ③20件
	実績値	①1回 ②8機関 ③89件
	2023年度の成果	
実 績		①エステスクエアにて自治会と共に地域ケア会議を開催。現状と課題を共有し、住民としてできることについて、グループワークを通じて話し合えた(1月末開催予定) ②保健所や障がい者支援センター等、複数の機関へ働きかけた。東京社会福祉士会町田支部の方々と勉強会を実施。成年後見に関わる業務の相互理解を深めた。実際の相談ケースで連携した機関が想定より少なかったため、目標は未達となった。 ③幹線道路沿いのほぼ全ての店舗へ個別訪問実施。改めて高齢者支援センターの周知活動を展開。協力関係構築の足掛かりができた。
	2024年度に向けた課題	
		①プライバシーの保護が強く意識されたマンションにおいて、課題に対する当事者意識を高めるための手段を増やし、いかに継続性を持たせられるかが課題 ②各関係機関の役割の相互理解がまだ不足しており、有効な連携ができず、結果、対象者やその周囲の方への適切な支援が行えていないことが課題。 ③顔の見える関係性を構築しただけで、まだ支援センターを活用してもらえるほどの理解は得られていない。

取組名②		場所・機会・情報が循環する仕組みづくり		
計 画	目標	地域住民が自宅近くにある通い場や、自分の興味のあること・趣味・やりがい・生き方にあった活動に参加することができる。		
	2023年度の取組	<p>① 住み開き(自宅開放・店舗の空きスペース利用など)のアンケート調査を対象エリアや団体を決めて実施し、新たな活動場所を開拓する。</p> <p>② 地域みんなの掲示板をホームページ上に開設し、幅広い世代に対して地域住民の『やりたいこと・出来ること』などの情報を発信し、やりがいや生きがいにつながる活動の意欲を高める。多様なニーズとスキル・思い・場を支援センターが間に入りマッチングすることで、世代を超えた住民同士の相互作用で新たな交流を生み出す。</p> <p>③ オンライン相談拠点事業等を行うことで、高齢者のデジタルへの苦手意識を解消し、必要な情報を自ら取得できるよう支援する。</p>		
	活動指標			
	① 調査実施回数			
	② マッチング件数			
	③ スマホセンター(オンライン相談拠点)の開催回数			
	目標値	①1回	②10件	③年12回
	実績値	①3回	②12件	③年12回
	2023年度の成果	<p>①・芝好園自治会にアンケート調査を実施した。・成瀬エリアの店舗へ空きスペースの利用確認を行った。・成瀬台の自宅を開放して町トレがスタートした。</p> <p>②ホームページ上に掲示板を開設し、ものづくり(エコバック・牛乳パックなど)でマッチングした。</p> <p>③大学生や高校生に講師になってもらい、毎月第2土曜日に実施。</p>		
	2024年度に向けた課題	<p>①アンケート結果にて、興味はあるが、住み開くことにまだ抵抗があるという人も多く不安を取り除くために、もう少し住み開きについて知ってもらう必要性を感じた。</p> <p>②情報発信の仕方に工夫が必要。</p> <p>③学生の継続的な活動に課題を感じている。</p>		
実 績				

取組名③		やりがいを持って地域に繋がろう	
計 画	目標		
	自主グループの活動支援、地域の中で多世代が参加できる通い場づくりを行い、介護予防・フレイル予防をさらに推進する。		
	2023年度の取組		
	① 誰でも楽しめるニュースポーツを中心とした自主グループの立ち上げを、介護予防サポーターと協働して行い、地域の中に多世代で定期的に交流できる場所を作る。		
	② 月間イベントや自主グループ交流会を開催し、自主グループ活動の発表の場を設け、ものづくりの作品展示やワークショップ等の機会をつくることにより、メンバーのやりがい向上と新規メンバーの参加を促し、既存グループの活動継続支援につなげる。		
	活動指標		
	①グループ立ち上げ数 ②参加グループ数		
	目標値	①1グループ ②5グループ	
	実績値	①1グループ ②17グループ	
実 績	2023年度の成果		
	①地域介護予防教室を介護予防サポーターと協働して実施。モルックのグループを立ち上げた。成瀬コミュニティセンターグラウンドで、月2回活動中。		
	②10月に介護予防月間イベントを開催。自主グループの発表会、作品展示、ワークショップの場を設けて、活動紹介を行った。「目標を持って活動出来た」「毎年開催してほしい」などの感想があり、メンバーのやりがい、グループの継続支援につながった。		
	2024年度に向けた課題		
	①モルックの自主グループが多世代で定期的に交流できる場になっていない。 ②既存の自主グループに新しいメンバーの加入が少なく、多くの自主グループが今後の活動に不安を感じている。		

3 市のコメント

(良い取り組みだと感じた点)

○スマホセンターについて、高校生や大学生を講師とし、多世代交流を兼ねて実施できたこと。

○オートックロックマンションを対象に、特有の課題の把握とその解決に向けて働きかけを行い、地域ケア会議を開催できたこと。

(次年度以降力を入れてほしい点)

○複合的な課題をもつ高齢者を他機関と連携して支援できるよう、引き続き関係づくりを行うこと。

2023年度医療と介護の連携支援センター重点事業計画書兼報告書

以下の項目について、町田市地域包括支援センター運営方針を踏まえて記載してください。

1 町田市の現状と課題

センターとして考える町田市における在宅医療・介護連携推進事業の現状と課題を記載してください。

【現状と課題①】

医療と介護の連携協働を推進していく上で、医療側と介護側がお互いの制度への理解を高めしていく必要がある。特に退院→在宅、在宅→入院時などは、医療と介護で密接な連携が必要となる重要なタイミングであるが、介護保険側のサービスについて医療・介護関係者が制度を知らない、また、活用方法の理解が進んでいない状況がある。

その為、医療介護関係者が様々なサービスについて知り、市民に向けて提案できるような体制を整備していく必要がある。

【現状と課題②】

医療と介護の連携協働を推進する役割を持つ当センターとして、3 師会所属医療機関との関係性構築は必要不可欠なものであるが、すべての医療機関と気兼ねのない関係を構築できていない現状がある。

医療と介護の連携協働を推進していくために、医療機関と顔の見える関係性作りを行うとともに、医療機関からの相談をより多く受け付けることで医療と介護の円滑な連携を阻害する要因を浮き彫りにしていく必要がある。

【現状と課題③】

各地域で開催される地域ケア推進会議や個別の総合相談の中に、認知症の方の早期発見や早期の受診支援の必要性や、かかりつけ医と専門医療機関との連携がうまく取れないと言った現状がある事が散見される。市民の方が認知症になっても望む場所での生活を継続できるような支援体制が必要である。

2 課題解決に向けた重点的な取組

「1」の課題を解決するため、重点的に取り組む内容について記載してください。

取組名①	在宅療養に必要な知識を専門職へ提供する	
計 画	目標	
	<p>市民の在宅療養に必要な知識(特に入院時や退院時に関すること)を学ぶことで、限りある医療や介護の資源を有効活用できるよう促す。</p> <p>このセミナーで得られた資源や活用の為の知識を地域で開催される地域ケア推進会議や医療介護関係者・市民などへの研修会・勉強会で共有してもらい、サービスを活用していく事で、市民が望む場所での生活が促進される。</p>	
	2023年度の取組	
	<p>介護保険サービス種別には(看護)小規模多機能型居宅介護という複合型サービスがあるが、現在の利用状況や認知状況は医療側・介護側にもあまり高くない状況がある。</p> <p>このサービスは、(①在宅で生活されている方が、病状などの変化により入院までの必要性はないが自宅での生活は困難な場合の受入れ機関として②入院されている方が、即在宅ではないが在宅生活にシフトしていく為の受入れ機関として)医療と介護が密接に連携協働を行うものである。</p> <p>市内の医療・介護従事者向けに、(看護)小規模多機能型居宅介護に関する研修会を開催し、サービスについての知識習得をするとともに、このサービスの「役割」をどのように活用していけばよいのか、医療・介護福祉職が学ぶ機会を持つ事で、医療や介護の連携協働に資することが可能であると考え。</p>	
	活動指標	
	セミナーを1回開催しその研修受講者数	
	目標値	受講者数:50名以上(当初オンライン研修での想定)
実績値	受講者数:49名(対面研修に切り替え)	
実 績	2023年度の成果	
	<p>医療介護関係者に(看護)小規模多機能型居宅介護サービスを「知ってもらおう機会の提供」について、医療機関(11名)、介護関係機関(38名)の参加があった。</p> <p>終了後アンケートの結果(33名回答)から、参加者の96%の方が「参考になった」、100%の方が「今後の業務に役立つ」の回答を成果と考える。</p> <p>これまでに(看護)小規模多機能型居宅介護について、利用者に情報提供していないと回答頂いた方(45%)にも研修を通して制度や事業所の特徴等の知識を深め、利用に向けた具体的なイメージを持って頂ける機会になった。また、参加者や開催者側からの質疑応答を通して、詳細なサービス利用に向けた情報共有を行い、(看護)小規模多機能型居宅介護サービスの「機能」や「役割」の理解を深め、知識として習得する機会を提供することができている。</p>	
	また今回のセミナーは町田市内全ての(看護)小規模多機能型居宅介護サービス事業所	

	<p>の協力を得て開催を行っている。医療介護関係者に(看護)小規模多機能型居宅介護サービス(機能・役割)について、知識の習得をしてもらうだけではなく、(看護)小規模多機能型居宅介護サービス事業所間の情報共有・連携協働にも繋がっている。</p>	
	2024年度に向けた課題	
	<p>今回のセミナーで得られた知識や資源を活用して、①ご利用者の状態に合わせた柔軟な事業所の対応を検討することができ、ご利用者・家族の望む生活を支えるサービスの情報提供が行えているかを確認していく必要がある。</p> <p>②地域で開催される地域ケア推進会議や医療介護関係者・市民などへの研修会・勉強会で今回のセミナーで得た知識や資源を共有してもらう為に必要な内容について精査していく必要がある。</p>	
	取組名②	医療機関と連携協働を図れる体制の構築
計 画	目標	
	医療機関へ当センター及び高齢者支援センターの周知活動を行うとともに、市内各圏域の医療資源の把握、各医療機関と顔の見える関係を築くことにより連携・協働を図れる体制を構築する。	
	2023年度の取組	
	三師会所属の医療機関を訪問し、当センターの機能について説明をするとともに、各医療機関と顔の見える関係を構築する。	
	訪問の際は、年度改めて開始された事業や再周知が必要な事業など、説明を行い医療介護の福祉の連携協働体制の構築。頼りにされるセンターとしての役割を作る事を念頭に置き訪問を行う。	
	医療機関との関係性を強化し医療機関からの相談件数を増やすことで医療と介護の連携協働を促進又は阻害する要因等の情報を収集し、そこで得た情報をもとに医療と介護の連携協働を推進する取り組みを検討していきます。	
	活動指標	
	医療機関からの相談件数	
	目標値	年間 170 件以上
	実績値	2023 年 11 月現在 130 件(2024 年3月末で 170 件以上見込み)
実 績	2023年度の成果	
	三師会所属の医療機関を適宜訪問し、当センター及び高齢者センターの周知活動(当センターの業務内容や実際の相談事例の説明・地域型支援センターの役割や各圏域の担当のセンターの紹介・虐待などの早期発見について)を行っている。標値としていた相談件数も達成した。医療機関からの相談内容としては、特定の医療や特別な設備を扱える医療機関の問い合わせが最も多く、次いで医療・介護保険制度に関するものと続いている。昨年度と比較すると、個別のご利用者様への支援内容の相談が増加している。こ	

	<p>の事から当センターが果たすべき役割である、医療からの切れ目ない介護・福祉への情報共有及び連携協働体制の構築が行えていると考えられる。</p>
	<p>2024年度に向けた課題</p>
	<p>実際に医療機関へ訪問調整を行うも、医師に会う機会がなかなか得られない場面が多い。こちらから提供した各種資料の閲覧状況も確認できない状況でもある。医療機関に対して有用な情報を提供することにより、よりセンターの活用が促進され则认为る。頂いた相談内容については在宅における4つの場面へのカテゴリ分け(2023年11月分より)を行いより医療と介護の連携協働を促進又は阻害する要因や課題の明確化を図っていく。</p>

取組名③	<p>認知症疾患医療センターとの連携協働体制の構築およびかかりつけ医との連携協働体制構築</p>
計 画	<p>目標</p>
	<p>認知症の方の早期発見・早期診断、そして認知症の方が自ら望む地域で生活を継続していく為に、日常におけるかかりつけ医への定期的な受診や適切な段階で専門医受診ができるような体制構築を推進する。</p>
	<p>2023年度の取組</p>
	<p>認知症の方の早期発見・早期診断、そして認知症の方自らが望む地域で生活を継続していくには、日常においてかかりつけ医を定期的に通診しつつ適切な段階で専門医を受診できるよう、地域にある診療所・クリニックと町田市認知症疾患医療センターとの連携体制の構築が必要である。</p> <p>そのため、今年度は認知症疾患医療センターと定期的な会議を持ち、現在認知症疾患医療センターとご利用者の紹介・逆紹介の実績がある地域の診療所・クリニックについて調査を行うとともに、両者が連携し診療を行う際の方法や、それに伴う診療報酬上の加算内容などの確認を行う。これをもとに、かかりつけ医療機関・認知症疾患医療センターの相互理解を促進し、ご利用者の望む生活の支援につなげる。</p> <p>次年度以降は市内のかかりつけ医療機関・介護保険事業所へ訪問を行い、認知症疾患医療センターとかかりつけ医の連携協働の体制づくりに関し意見交換を行いながら連携について検討していくことを目指す。</p>

	活動指標	
	認知症疾患医療センターとの定例会議数	
	目標値	3回(6月、10月、2月)
実績	実績値	3回(6月、10月、2月予定)
	2023年度の成果	
	<p>認知症疾患医療センターとの会議(第1・2回)において、認知症疾患医療センターの概要・認知症疾患医療センターの目的・町田市内における専門医療相談・鑑別診断、初期対応について・診療報酬上の取り扱い・認知症サポート医についての情報と認知症疾患医療センターとかかりつけ医や認知症サポート医との連携体制の現状について、共有を行った。</p> <p>その会議を経て連携センターとして「認知症疾患医療センター・認知症サポート医」について、地域型のセンター及び介護保険事業所へ共有した。また、第3回目の会議については拡大会議とし「(認知症疾患医療センター・認知症サポート医について知る)セミナーとして開催した。</p>	
	2024年度に向けた課題	
	<p>医療介護関係者に認知症疾患医療センター・認知症サポート医の機能や役割について知られていない現状があり、認知症の方の早期発見・早期診断、そして認知症の方自らが望む地域で生活を継続できない現状がある。そのため</p> <p>①認知症疾患医療センターの機能や体制などを幅広く知ってもらう為、セミナー対象者については市内の高齢者支援センター及び居宅介護支援事業所を中心に検討を行う。(枠として制限を行わず医療機関にも案内は送付予定としている)</p> <p>②市内のかかりつけ医療機関・認知症サポート医へ訪問を行い、認知症疾患医療センターとかかりつけ医の連携協働の体制づくり(連携がスムーズにいかない阻害要因・スムーズにいく為に必要な方法や手段)に関し、意見交換を行いながら連携協働について検討を行う。</p>	

3 市のコメント

<p>(良い取り組みだと感じた点)</p> <p>○(看護)小規模多機能型居宅介護サービスのセミナーについて、受講者数が目標値に1名達しなかったものの、医療と介護の連携に必要な適切なテーマを選定した。また、アンケート結果も良好なものであり、制度の周知として成果があった。</p> <p>○医療と介護の連携に関する取り組みとして、認知症の視点も取り入れたこと。また、町田市認知症疾患医療センターとの連携会議に留まらず、広く市内の介護福祉関係者向けのセミナーを行い、同センターとの連携やサポート医の活用について周知したこと。</p> <p>(次年度以降力を入れてほしい点)</p> <p>○医療側と介護側がお互いの制度への理解を高めるための取組において、より医療機関側の参加が見込まれる取り組みを推進していくこと。</p>
